

平成13・14年度

研究紀要

—自然学校指導補助員に関する調査—
—自然学校を経験した5年生児童の保護者に関する調査—



兵庫県立
南但馬自然学校
HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

はじめに

たまには目をそらす？

本校での「調査研究」、自然学校でどんな活動をして子どもがどうなって……にばかり関心が行っていました。今回は半分は補助員に関する調査です。自然学校の運営に必要な欠くことのできない補助員に関して、実態が把握できていない、ということを考えればこの調査もとても重要だったはずなのですが、なぜか初めてらしいのです。

それだけに不完全なところもあるかもしれませんが、きっと役に立ててもらえるでしょう。また、自然学校と補助員について考えるきっかけをくれるかもしれません。

考えてみると、こんな風に、子どもにあまり目を向けない調査、あまり行われることはありません。子どもにばかり目が向きがちです。たまには少し目をそらし、ちょっと外れたところを見るのはどうでしょうか？ 何か新しい視点、発見をもたらしてくれるのではないのでしょうか？ 本調査の主題とは関係ないけれど、ふと、そんなことを考えました。

平成 15 年 3 月

兵庫県立南但馬自然学校
校長 森本 雅樹

南但馬自然学校調査研究委員会では、担当指導主事の皆様によって様々な取り組みが行われ着実に研究成果をあげてきましたが、今回は野外教育に携わる複数の大学教員がプロジェクトに加わり、研究協力を図ることになりました。

大学という研究機関に身を置く者にとってこのようなプロジェクトに協力できる機会を与えられたことはこの上ない喜びです。なぜなら、兵庫県が進める自然学校の中核施設である当校には、当該分野研究のための諸条件が備わっているからです。具体的には、現場に最も近くかつ客観的に自然学校の現場を観ることのできる自然学校指導主事の方々と、野外教育の専門家が協力することによる相乗効果が期待されます。また、これまで野外教育の研究を進めるにあたって最も大きな障壁となってきたのは、現場の生の声がなかなか聞けなかったことや収集できるデータ数において限界があったことなどですが、このプロジェクトに加わることでそのような問題点も解消されます。

もちろん研究環境を求めただけではありません、今回加わる者は何れも兵庫県民。自然をこよなく愛している野外活動の実践家であり、自然体験がすくすくと児童を育むことを知っています。そして研究成果が兵庫県の自然学校事業に役立ってほしいと願っての協力でもあります。

今回は二つのテーマを設けました。一つは「自然学校指導補助員に関する調査」、もう一つは「保護者がみた自然学校の評価」についての研究です。

調査の主たる対象は児童や教職員、教育効果などに直接かかわっているものではありませんが、それぞれが自然学校をとりまく重要な構成要素です。前者は、自然学校の運営に今やなくてはならない存在となっている指導補助員の実態を調査し、自然学校における指導補助員の活用の仕方を考える上での基礎資料を得ようとするものです。指導補助員については問題も発生するなど必ずしも好ましい状況ばかりとはいえないことから、早急に実態を把握する必要があると考えました。後者は、保護者の自然学校への理解を深めるためには、親子参加型自然学校的プログラムを開発し実施するとよいのではないかという仮説の下に、保護者の自然学校に対する興味、関心、ニーズを探ることにあります。子どもの体験を共有することで一層自然学校への理解が深まると期待されるからです。

それぞれのデータ分析にもご注目下さい。

平成 15 年 3 月

兵庫県立南但馬自然学校
調査・研究委員会

委員長 山 田 誠

目 次

○ はじめに

第I部

自然学校指導補助員に関する調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第II部

自然学校を経験した5年生児童の保護者に関する調査・・・・・・・・・・15

* 補足資料

第 I 部

自然学校指導補助員に関する調査

関西学院大学助教授 甲斐知彦
姫路獨協大学助教授 中野友博
兵庫県立南但馬自然学校指導主事 足立みや子
兵庫県立南但馬自然学校指導主事 西村一範
兵庫県立南但馬自然学校指導主事 森本良孝

【はじめに】

兵庫県における小学校5年生を対象とした自然学校は本年度で15年目を迎え、子どもたちの自然体験活動への取り組みに大きな役割を果たしている。現在、自然学校の多くは教育委員会、学校、施設、指導員、指導補助員、PTA、地域からなる組織で運営され、それぞれが自然学校運営において重要な役割を果たしている。中でも、多くの役割を担っているのが指導補助員であり、彼らが自然学校に及ぼす影響が大きいことは福田¹⁾中野²⁾らの報告からも明らかである。しかしながら、現場では、その指導補助員に関わる問題が発生しており、必ずしも良い状況の中で運営がなされているとは言い切れない。そこで、本調査研究委員会では、自然学校の運営に大きく関わりをもつ指導補助員に焦点を当て、その実態を調査し、自然学校における指導補助員の活用の仕方を考える上での基礎的資料を得ることを目的とし、自然学校中核施設として設置されている県立南但馬自然学校で活動した指導補助員を対象に調査を行った。

【方 法】

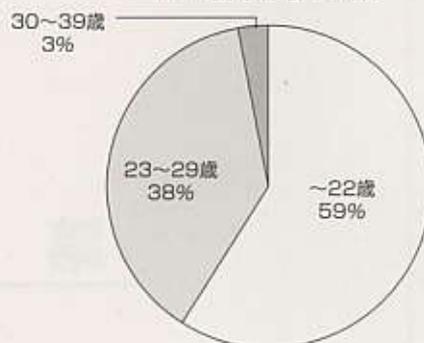
調査は南但馬自然学校で自然学校を行った小学校(50校)の指導補助員222名に対して、郵送法及び南但馬自然学校での自然学校入校時に配布、退校時に回収といった方法を用いて、平成14年5月～11月の期間にアンケート調査を行った。回収数は140通(回収率63%)であった。なお、設問方法は選択肢法を用い、一部の設問においては自由記述回答を求めた。

【結果・考察】

1. 指導補助員の属性について

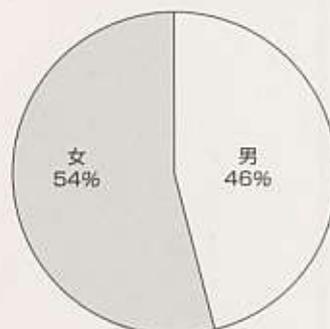
年齢：図1に示すとおり、指導補助員の年齢は22歳以下が一番多く全体の59%を占めている。さらに、23～29歳で38%となっており、指導補助員は20歳代の者が担っていることがわかる。

図1 指導補助員の年齢



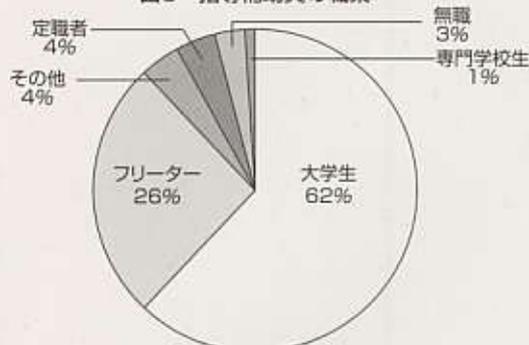
性別：図2に示すとおり、性別では男性が46%、女性が54%とほぼ同数であった。

図2 指導補助員の性別



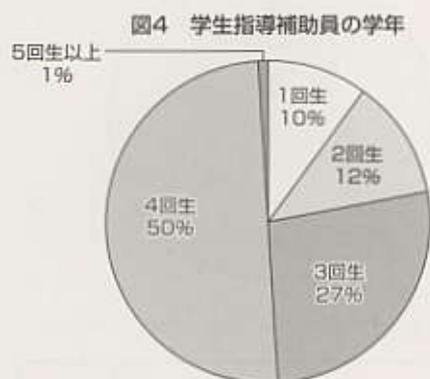
職業：図3に示すとおり、大学生が62%と一番多く、次いでフリーターが26%となっており、年齢もあわせて考えれば、指導補助員の多くは大学生であることがわかる。また、少数ではあるが自営業、公務員、非常勤講師といった職業の者が休みを利用して指導補助員を勤めるケースがあった。

図3 指導補助員の職業

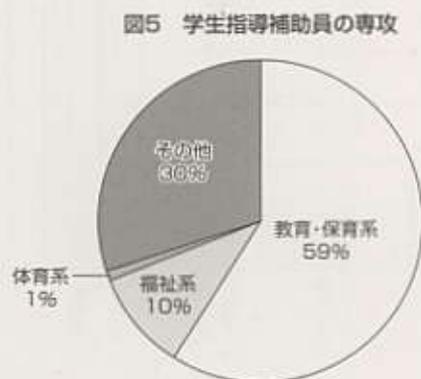


学年：さらに、学生(大学生及び専門学校生)に学年を尋ねたところ、図4に示すとおり、4回生が50%と一番多く、次いで、3回生の27%、2回生の12%、1回生の10%となった。これは1、2回生では比較的、学校での授業が多く、授業を

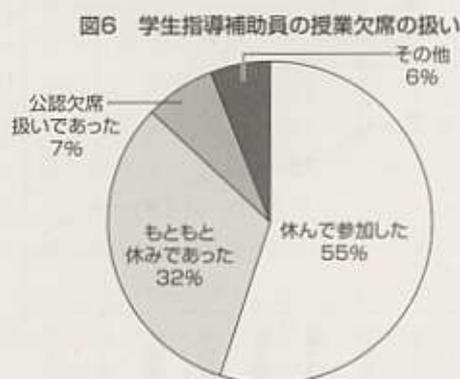
休んで参加することが難しいためではないかと考えられる。



学生の専攻：学生に対して専攻を尋ねたところ、図5に示すとおり、教育・保育系の学生が多かった。



欠席の扱い：学生に対して、指導補助員を担当する際、学校の授業をどうしたか尋ねたところ、図6に示すとおり、「休んで参加した」が55%と多く、学年とあわせて考えれば、比較的授業数が少ない4年生が授業を休みやすく、参加数が増えたのではないかと考えられる。



2. 指導補助員の経験とスキルについて

本調査の対象となった指導補助員は図7に示すとおり、その経験回数が多い者では50回を越え、自然学校の指導補助に関して、かなりの経験を積んでいる者がいることがわかる。しかしながら、その経験が4回以下と少ない指導補助員が51%とかなりの割合で存在することもわかる。また、経験年数についても、図8に示すとおり、5年以上の経験を積んでいる者が23%いるが、1年目～4年目といった比較的経験の浅い者で77%を占めており、「属性」のところでも触れているとおり、指導補助員の多くが学生のため、在学している4年間での経験にとどまっていると考えられる。なお、経験年数と年間に参加する学校数の関係について、相関係数を求めたところ、0.366となり、経験年数の多い指導補助員ほど年間に参加する学校数が多いことが示された。(p<0.01;有意水準=0.01)

図7 Q2「今回の自然学校はあなたにとって何回目？」

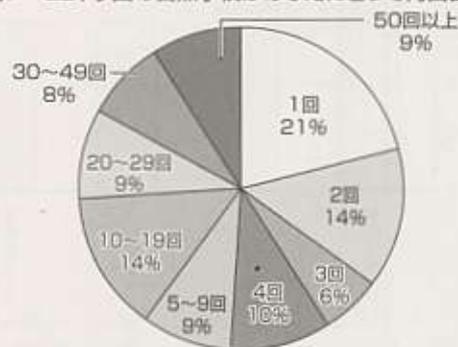
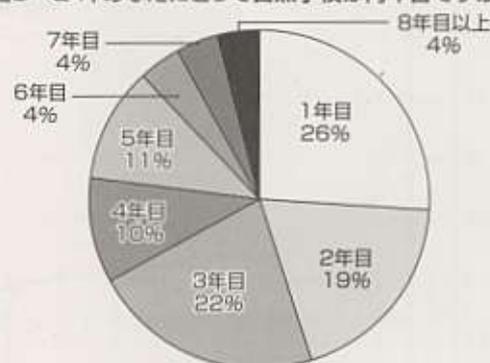


図8 Q4「あなたにとって自然学校は何年目ですか？」



一方、自然学校以外での状況としては、図9に示すとおり、63%の者が普段所属する自然体験活動関連団体を持っておらず、個人での活動か、もしくは自然学校の指導補助活動が主な活動となっているようである。(所属者の所属団体は図10に示す)また、指導能力について、5段階評価で自己評価してもらったところ、図11に示すとおりと

なり、平均値から標準偏差分0.61を上回る項目、すなわち、得意とする項目は野外炊事、キャンプファイヤー、ウォークラリー、野外ゲーム、オリエンテーリングとなり、下回る項目、すなわち、不得手とする項目は雪上活動、星空観察、環境教育、地域研究、ロープワーク、バードウォッチングとなった。なお、図12に示すとおり、自然体験活動に関する資格を所持している者は28%にとどまった。（資格所持者の資格は図13に示す）

図9 Q14「普段所属している自然活動関連団体はありますか？」

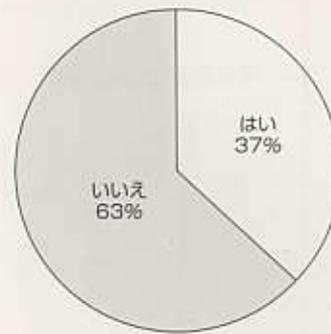


図10 Q14SQ「それはどんな団体ですか？」

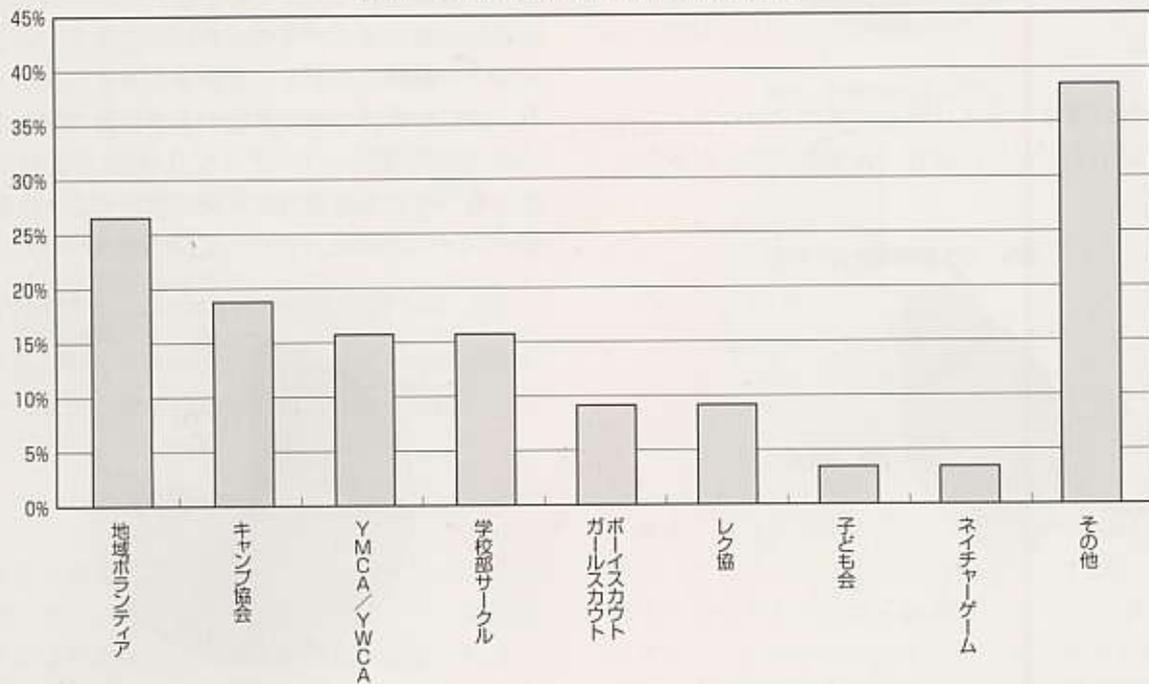


図11 各活動における指導能力の自己評価

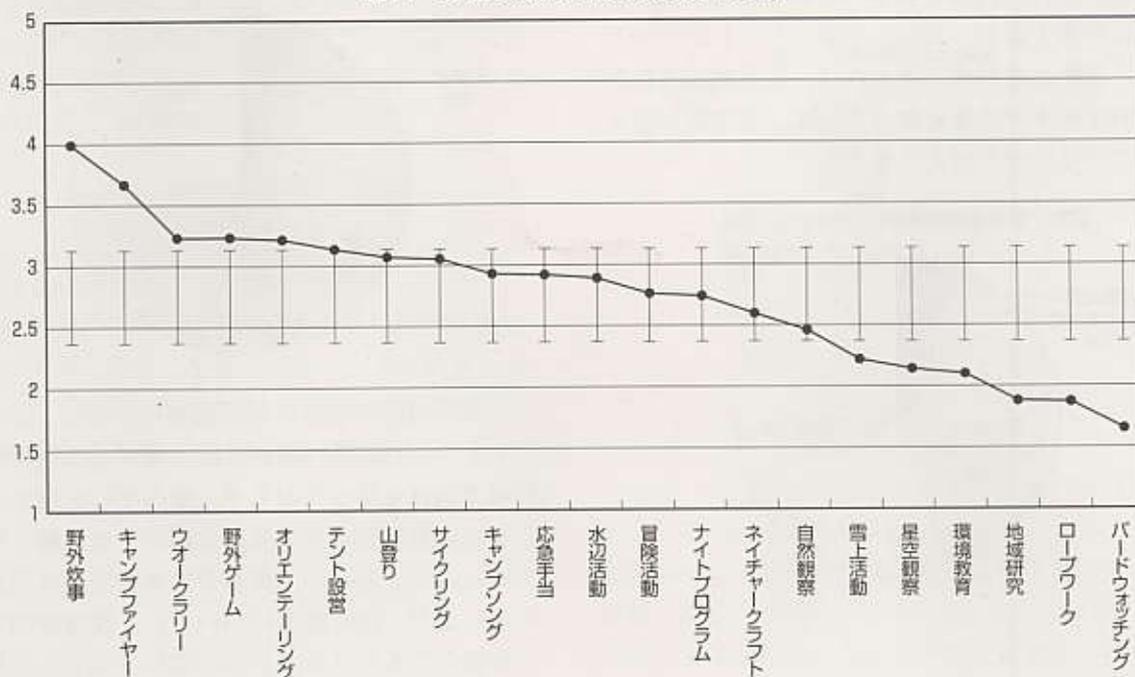


図12 Q15「自然体験活動関連の資格を持っていますか？」

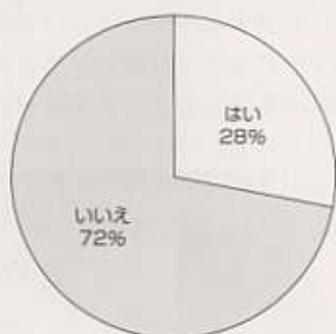
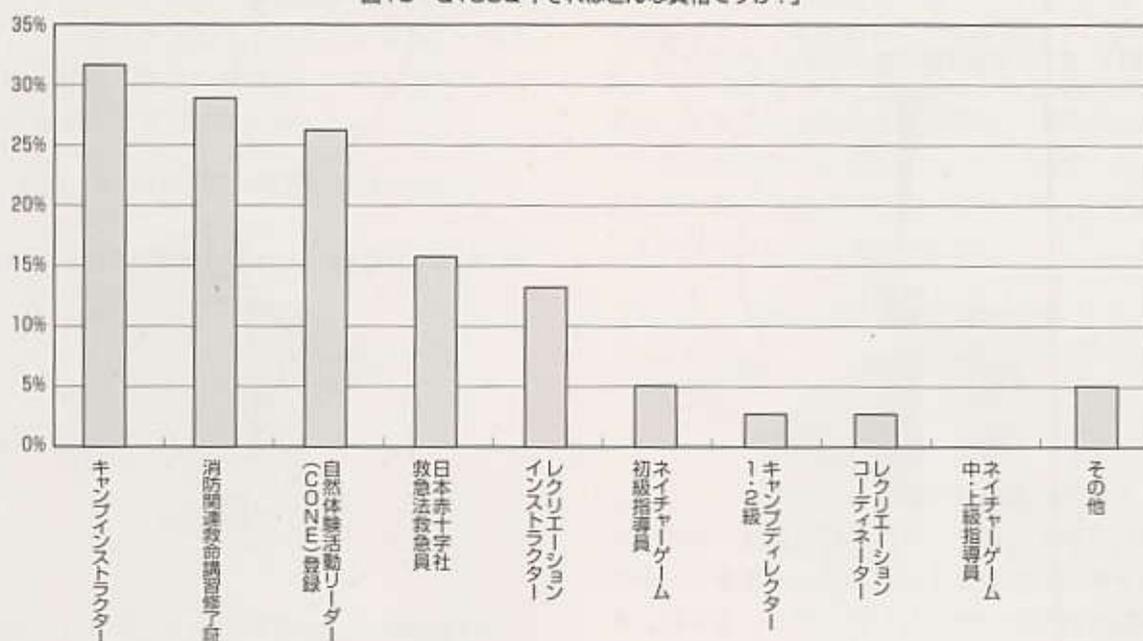


図13 Q15SQ「それはどんな資格ですか？」



3. 指導補助員の採用について

指導補助員の採用に関する情報をどこで得たかを尋ねたところ、図14に示すとおり、知人、友人などからの紹介が55%と一番多く、公の情報よりも、個人のネットワークによって、採用情報が広まっているようである。また、採用が決まった指導補助員に関して、「自然学校依頼の公文書があったか、無かったか、あったとすればどこからもらったか」を尋ねたところ、図15に示すとおり、約半数の52%が「もらっていない」と答えており、指導補助員のあいまいな取り扱いがうかがえる。謝金については図16に示すとおり、その多くが40,000～80,000円の範囲であり、また、参加日数については図17に示すとおり、98%の者が全日程参加で、部分的に指導補助員を勤めるケースもあるが本調査ではほぼ全員が6日間の参加であった。

図14 Q5「募集はどこで知りましたか？」

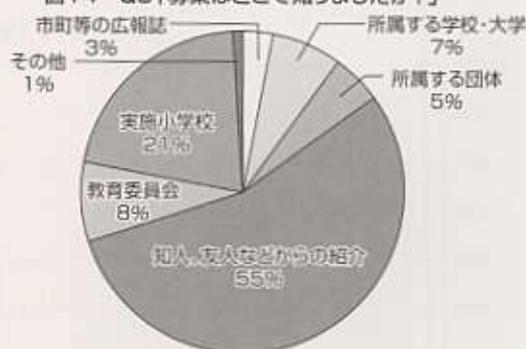
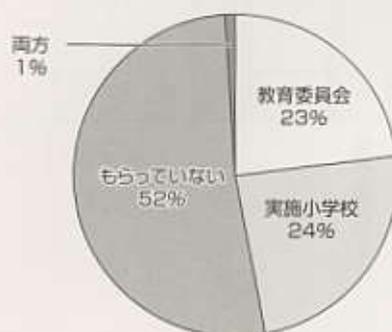
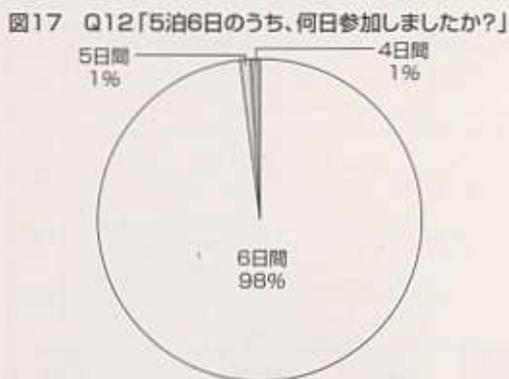
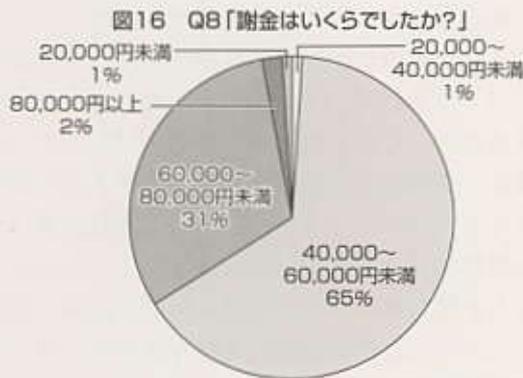
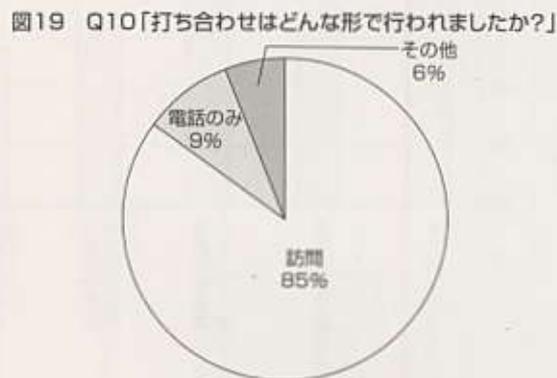
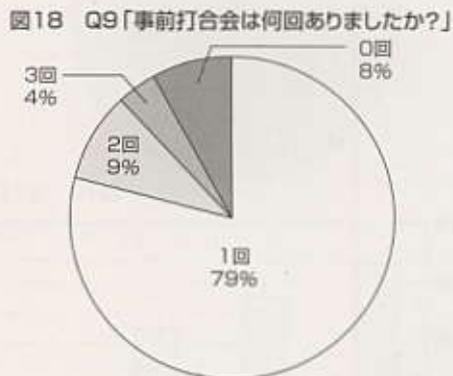


図15 Q7「自然学校依頼公文書はどこからもらいましたか？」





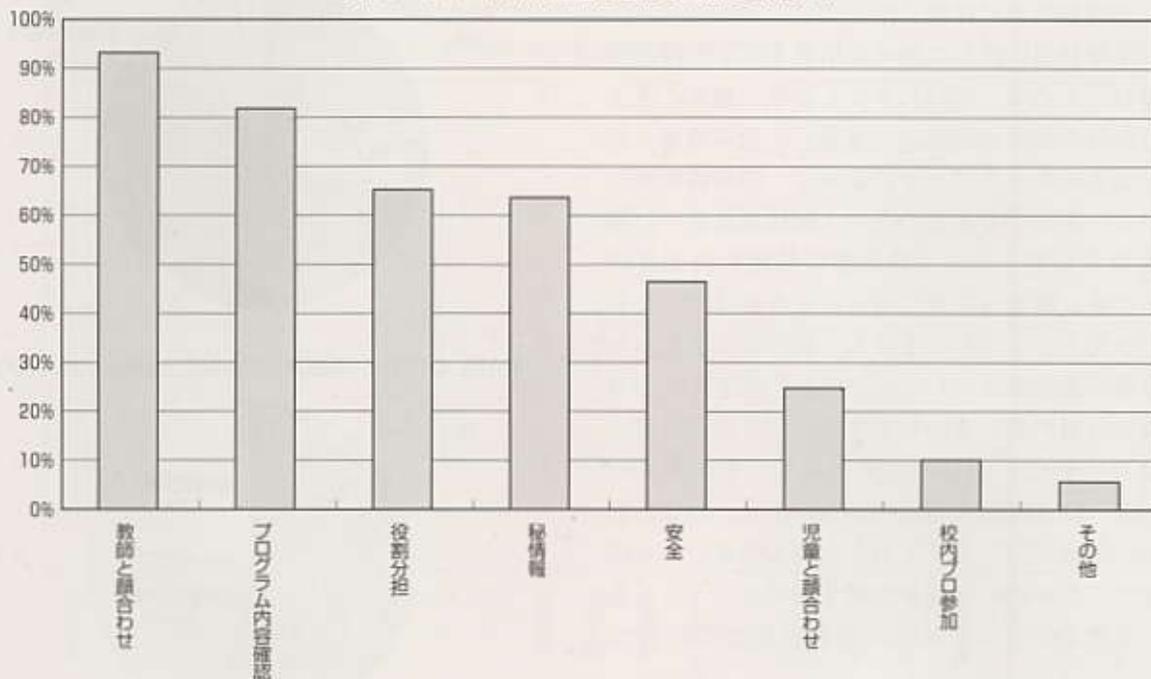
の打ち合わせの形態は図19に示すとおり、依頼された小学校に訪問する形が多く、打ち合わせ内容は図20に示すとおり、「教師との顔合わせ」「プログラム内容の確認」といったものが多かった。



4. 自然学校実施前の状況について

図18に示すとおり、自然学校実施前の学校との打ち合わせの回数は1回が79%と一番多く、少ない回数で打ち合わせが行われている。さらに、そ

図20 Q11「事前打合せはどんな内容でしたか？」



さらに、自然学校指導補助員を担当するにあたり、何か事前に研修を受けたかを尋ねたところ、図21に示すとおり、61%の者が受けずに、自然学校指導補助員を担当していた。「2. 指導補助員の経験とスキルについて」の資格所持状況とあわせて考えれば、表1に示すとおり、資格もなく研修も受けずに自然学校の現場に臨んでいる者は50.7%と約半数であり、リスクマネジメント等を考えても、今後、検討すべき点ではないかと考えられる。なお、事前に受けた研修は図22に示すとおり、「自然学校指導補助員の研修会」が31%、「自然体験活動関連の研修会」が27%であり、その両方を受けた者が19%であった。

図21 Q13「あらかじめ研修を受けましたか？」

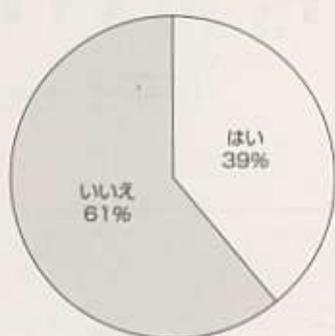


図22 Q14「あらかじめ受けた研修はどんな研修ですか？」

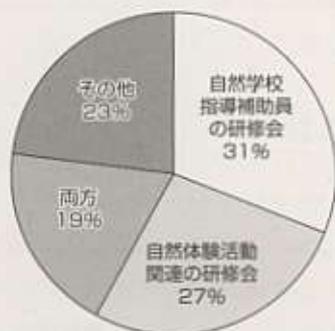


表1 資格所持状況と事前研修の有無の関係

	資格なし	資格あり
研修なし	50.7%	21.3%
研修あり	10.3%	17.6%

5. 現場での関わり方

図23に示すとおり、自然学校現場での児童との関わり方は「生活指導」、「プログラム運営・活動の指導」の両面に関わるケースが57%と多く、その多くは指導補助というよりはキャンプカウンセラーとしての働きが求められているようである。

また、各活動への関わり方および実施率を尋ねたところ、図24に示すとおり、「キャンプファイヤー」「キャンプソング」「野外炊事」「野外ゲーム」では指導補助員の関わり度合いが高く、「応急手当」「環境教育」「地域研究」「星空観察」では指導補助員の関わり度合いが低かった。また、未実施率と関わり方の関係(図25)について、相関係数を求めたところ、 -0.5742 となり、実施率の高い活動において、関わり度合いが高いことが認められた。($p < 0.01$)

図23 Q17「児童との関わり方は？」

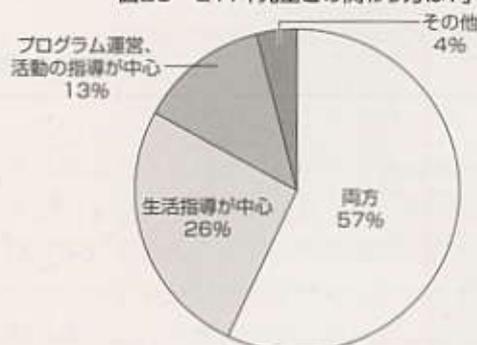


図24 Q18 各活動への関わり度合いと未実施率

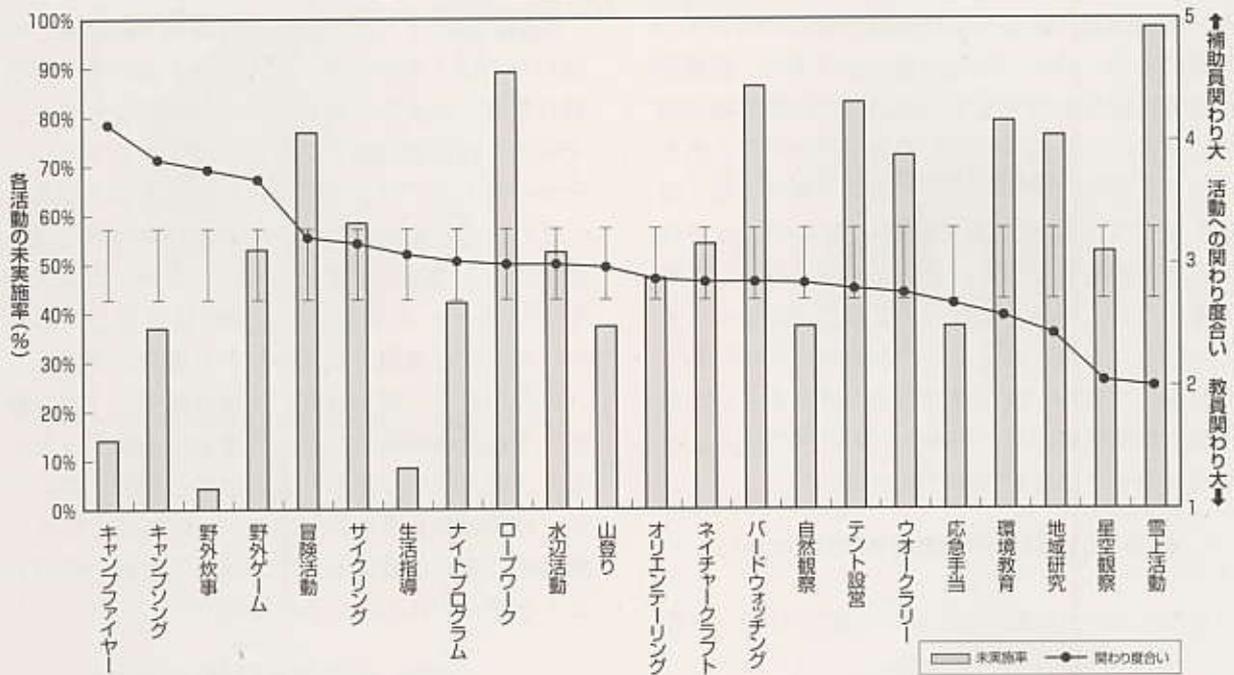
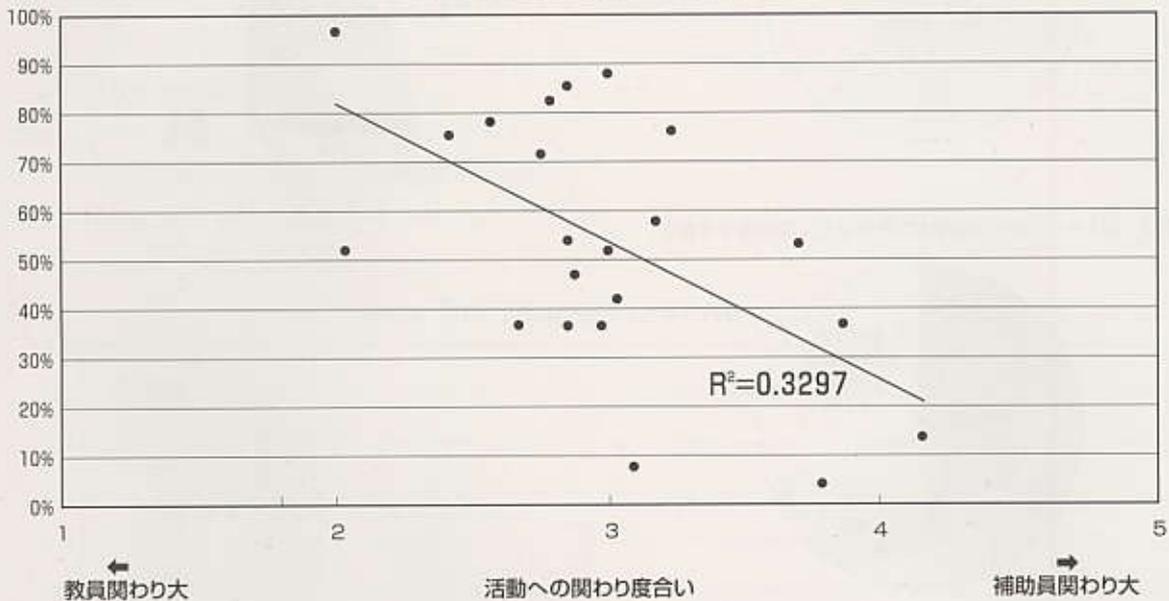


図25 未実施率と関わり方の関係



6. 自然学校実施後の状況について

図26に示すとおり、再度、指導補助員をやってみたいかを尋ねたところ、94%もの者が「はい」と答え、多くの者の中で自然学校での指導補助員という経験が前向きな体験としてとらえられているようである。その理由としても図27に示すとおり、事前の指導補助員になった理由とほぼ同じ傾向を示しているが、特に「楽しかったから」のポイントが23%増えており、前向きな体験であったことがうかがえる。

図26 Q19「再度、指導補助員をやってみたいですか?」

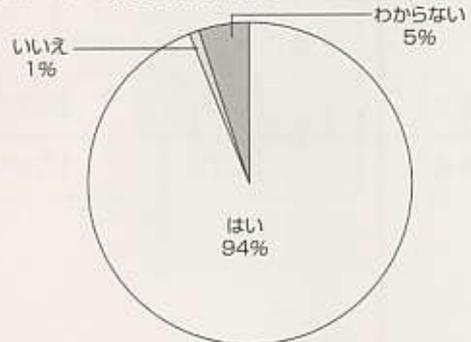
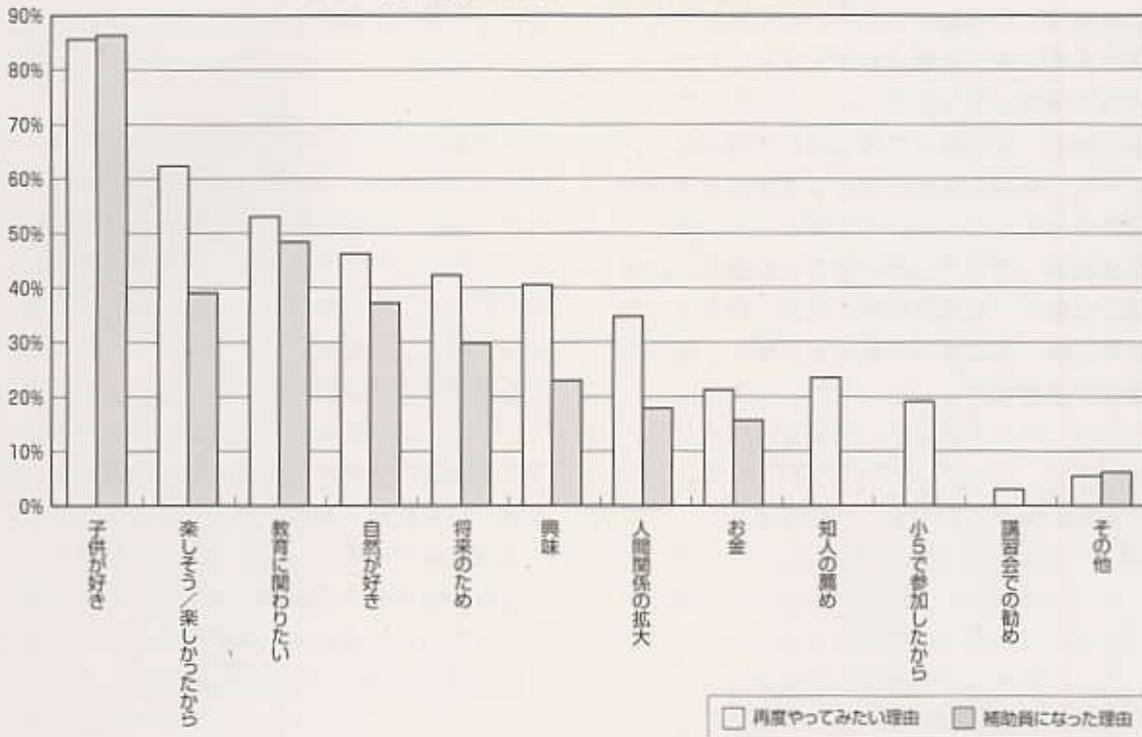


図27 指導補助員を再度やってみたい理由となった理由



さらに、本調査では以下の2点に関して、自由記述回答を求めたところ、その回答率は高く、「自然学校指導補助員を経験して良かったこと・得たものについてご自由にお書きください」としたQ20では80%、「自然学校指導補助員を経験して不満なこと・望むことについてご自由にお書きください」としたQ21では49%と回答者の意識の高さがうかがえた。

Q20では、「スタッフとして参加しながらも自らが学ぶことが多く、指導補助員自らが成長できた」といった記述が多く、高い満足度を示している。(全文はAppendixに添付) 一方、Q21では「教員との連携」「プログラム内容についての指摘」「指導補助員同士の関わり」に関する記述が多く、指導補助員の位置づけ、役割を明確にする必要があると考えられる。(全文はAppendixに添付)

【ま と め】

南但馬自然学校で自然学校を実施した小学校の指導補助員の実態に関して調査を行った結果、以下のことが明らかとなった。

- ・指導補助員を行っている者の多くは20歳代で大学生が多く、その約半数が授業を欠席して参加

している。

- ・指導補助員は比較的、自然学校指導補助経験が少ない者が多く、自然体験活動に関する資格を持っている者も少ない。指導能力に関しては野外炊事、キャンプファイヤー、ウォークラリー、野外ゲーム、オリエンテーリングで高く、雪上活動、星空観察、環境教育、地域研究、ロープワーク、バードウォッチングで低い傾向にある。
 - ・指導補助員の採用に関して、その情報は公の情報よりも個人のネットワークによって情報を得ている。また、採用が決まった指導補助員に対しても、多くの場合、公文書等の公の依頼がなされていない。
 - ・実施前の準備については、打ち合わせが1回で、その内容は「教師との顔合わせ」「プログラム内容の確認」となっている。さらに、自然学校を担当するにあたって、事前に研修を受けている者は少ない。
 - ・現場では、指導補助というよりも「生活指導」「プログラム運営・活動の指導」の両面に関わっており、各活動についても実施率の高いものについては主導的にかかわっている。
- 以上の結果を踏まえ、今後の自然学校のさらなる充実を進めるために以下のことを提言したい。
- ・県教育委員会、あるいは市町教育委員会から県

下の大学、短大、専門学校へ自然学校指導補助員の採用情報を積極的に流し、公文書等の発行により県下の教育活動のサポーターとしての位置づけを明確にする。

- ・採用予定者に対しては教育委員会主導のもと、県下の自然体験活動団体等による研修を積極的に受けさせる。
- ・指導補助員に対して、研修会などを通し、自然学校のねらい、指導補助員の役割、教員との関係等を明確にし、理解させるとともに、確かな人権感覚を養う。

【引用・参考文献】

1. 福田芳則、吉識伸：「自然教室に関する研究（Ⅱ）－指導補助員の意識－」大阪体育大学紀要 第26巻（1995）pp. 75-86
2. 中野友博、高見彰、山田誠：「兵庫県自然学校の発展に向けて－自然学校の実態についての調査（報告）－」兵庫野外教育研究会 平成12年1月

Q20 自然学校指導補助員を経験してよかったこと・得たものについてご自由にお書きください。

A 1 自然学校中は子どもや先生方、他のリーダーと深く関わることが心に残っています。期間後も子どもから手紙をもらったり、学校行事等で会うことができるので、人間とつき合うことの素晴らしさを学んだような気がします。リーダーとしてのみでなく、いろいろな場面、いろいろな意味で人間として成長するきっかけになったと思います。

A 2 私は教員志望なので自然学校に参加させていただくことで学校・教師・施設をいつも多くの角度から見させていただいております。その中で、子どもへの対応や教職員の皆さんがどのように裏で動いておられるのか・・・ということを学ばせていただき大変勉強になっております。

A 3 社会教育・生涯教育を大学で専攻しているので、教育現場で活動しておられる先生方と一緒に活動させていただき勉強になった。子どもに対する接し方や活動の運営プログラムなど多くのことを学ばせていただいた。県外の大学に通っているため県ごとの体験活動の違いがつかめた気がする。育ち盛りの子どもたちと寝食を共にし、エネルギーもたくさんもらった。以後の活動にとっても役立つ体験をさせていただいたと思う。

A 4 自然学校を通して、子どもたちよりも自分が一番成長させてもらっている気がする。いろいろな子どもがいるので、この子はどう接したらいいんだろうと考えたり、子どもの笑顔や歌声などにすごく心が癒されたりする。5泊6日というほんの1週間ですごく仲良くなれて、すごく感謝してもらえ、すごく嬉しい。どうしたら子どもの心に響くだろうとかよく考える。

自分と子どもの心がつながるといふか、パシッといい感じになれるとすごくいい。子どもたちと遊んでいると自分も子どもになって遊べる。

すごく純粋で自分が忘れていたかもしれない気持ちを思い出す。ある意味、大人になり、子どもになり、普段の生活ではない自分を

発見し、自分も伸びすごく得たものは大きい。

A 5 自然学校に行き始めてから、いかに自分が幸せな環境で育ったかを思い知りました。当たり前のように両親がいて、当たり前のように食事をして、当たり前のように布団で寝ていた。それが当たり前ではないと分かったとき、とても恥ずかしかったです。その分、自分にとって当たり前だったことが当たり前でなくなった子どもたちに、今の自分ができることをやろうと思っています。自然学校に出会っていなければすごく視野の狭いちっぽけな大人のままだだったと思うと怖いです。(今もまだまだですが・・・)

A 6 子どもと自然の中で関わる中で自分も成長していくのを感じ、また、教師・指導補助員・子どもたちとの人間関係が広がった。たった5泊6日だが得るものが大変多く、すぐにでも何度でも行きたいと感じた。

A 7 学校教育の中での子どもの横のつながりが観察できた。自分の経験値の低さの再認識をさせられた。

A 8 自分が小学生だった頃を思い出しました。子どもの時はもっと自然にふれていたような気がします。今回の体験で改めて自然の良さを肌で感じました。また、教師を目指している者としては子どもの驚くような意見が聞けて勉強になりました。

A 9 子どもたちがいかに大人の行動や言動を見たり、聞いたりしているかを実感させられます。気をつけているせいか自然と普段からも言葉遣いなどを気にするようになりました。親と離れ生活することで得られる経験を子どもたちと一緒に繰り返すたびに自分自身も成長していると思います。自分が親になったときのよい勉強になります。将来の夢である野外活動関係の仕事に就くためにも最適の場所だと思っています。たくさん経験を積んで生かせたらと思います。

A 10 最初で最後の経験だったけど、子どもってすごく純粋で、でも複雑で、接する度に難しくなっていた。人との接し方や協調性、謙虚さ、我慢の大切さを痛いほど感じた。それをしっかりと子どもたちに伝えられたか心配ですが・・・。

A 11 学校の中とは違った中で大きくなって帰宅

- する子どもたちを見たときはいつもよかったと思う。
- A12 5泊6日の中で子どもたちの様々な面を見ることができて、将来教育に関わりたいと思っているのでとても勉強になった。子どもたちのいつも元気な姿を見ていると元気になる自分に気がついて、今まで以上に子どもたちと関わる職業に就きたいという思いが強くなった。
- A13 子どもの素直な思いを感じ、指導者としての子どもへの接し方を学べた。先生方との話により考えを深められ、また、自分の知識が豊富になった。
- A14 たくさんの子どもに接することができて、普段忘れてしまっていることや子どもの可能性、想像力の豊かさに気づかされます。そして、子どもから元気をもらいます。
- A15 とても充実している。大人からは学べないものを子どもから学べ、感じるができる。自分が成長できる。素直な子どもと接して自分も素直になれる。
- A16 私自身、小学校の一番の思い出が自然学校であったので、10年以上経った今、補助員として参加できたことがとても嬉しいことでした。また、逆の立場を経験させていただいたことで、楽しい思い出の陰でいろいろな人が動いてくれていたことを知ることができました。私が小学校の時にお世話になった補助員の方、先生方、施設職員の方、そして今回一緒に活動した方々、子どもたちにたくさんの感謝の気持ちを心から持つことができました。
- A17 補助員同士の呼吸を合わすことの大切さや先生方との関係の重要性を学んだ。子どもたちからはいつも見られている。子どもたちは大人をよく見ていることに気づかされた。
- A18 小学校の実体についての考え方が変わった。小規模校でも大変であることが分かり、指導補助員が自然学校にとって大変重要な位置を占めていることが分かった。
- A19 子どもたちとの関わり方を学ぶことができた。また、子ども主体の活動の在り方を学べた。
- A20 補助員をしながらも自然のことについて理解することが多いので、とても勉強になります。
- A21 経験を今後の活動にいかしていきたい。自分自身の内面の成長にもなりました。また、子どもの笑顔から力をもらいました。
- Q21 自然学校指導補助員を経験して不満なこと・望むことについてご自由にお書きください。**
- A1 今、よく自然学校に行っておられる人の中で、子どものことよりキャンプファイヤーのゲームのテクニックや盛り上げることばかりが先行してしまっているような気がする。「子どものために」というのが決まり文句のようにになっているが、もっと大切なものを見つけないとダメになってしまうような気がする。
- A2 だんだんと自然学校に参加するためにも資格がいるのかなあと思うことがある。そうではない場合は学校の先生方との話し合いの時間をしっかりとって、打ち合わせをすることが必要ではないかと思う。
- A3 自分の指導する力がまだまだということをより知り、もっと、学ぶことはあるなあと思った。頭では分かっているが、行動するのはなかなか難しいということあらためて感じた。
- A4 自然学校が始まって15年になり、自然学校指導補助員も定着してきたと思いますが、リーダーを望んでおられる学校、補助員を望んでおられる学校の二面性があるように思います。
リーダー主体な自然学校もよくあるのですが、その中でも意味づけてリーダーを前に出してくださる先生方と、何の考えもなくただお任せの雰囲気先生方がはっきりと分かります。自然学校の意味をもう一度確認しつつ活動に臨みたいと思っています。
- A5 勘違いしているリーダーが増えていることが悩みです。特にA市やB市などは、リーダーが主体でプログラムを進行する。自然学校を一つのイベントのように盛り上げ、自己満足していること。全員がそうではありませんが、C市の一件もあることですし、「資格」とかの観点ではなく、「資質」の面を問

うことが必要ではないかと考えます。

A 6 年間を通してあればよい。大学側の理解もあればさらによい。実施施設からの依頼もあれば選択肢も増え、参加機会が増えると思う。是非そのようになればと望む。

A 7 先生方が途中交代されるとき引き継ぎの重要性。指導補助員、先生方それぞれが子どもたちの前にどう出て、どの辺りまで引っ張って行くのかが打ち合わせ通りいかないことが多い。

A 8 子どもが元気に帰ったことを異例だと言われ、大変ショックを受けました。先生方のベースにあわせられている子どもたちが多いのだと感じました。

プログラムも詰め込みすぎです。一つのことじつくりと取り組むプログラムを増やして欲しい。子どもたちに達成感を持たせることにより、自信や心に残るものになるのではないかと思う。

A 9 学校とは違った環境で1日中を通して時間が使えるという条件を生かしたプログラム立案をして欲しい。せっかく自然の豊富な所に来ているのに室内のプログラムが多かったり、1日中忙しく活動を詰め込んだり、ちょっと残念なプログラムを立てている学校も見受けられる。

A 10 睡眠が充分にとれないこと。

A 11 教職員との密な連絡を望む。

A 12 先生方の中での自然学校における細かな打ち合わせがもっと欲しかった。プログラムが豊富な割に流しているだけの感があって、子どもたちに求めているものが分からなかった。

A 13 自然学校の中で普段できないことをとことんやり通すプログラムも行って欲しい。

事前の下調べから体験、まとめへ。

A 14 学校によって自然学校のとらえ方が異なる。内容も質的差が大きく疑問が残る。学校、リーダーの考え方、指導の姿勢にも大きく問題を感じる。大いに若手リーダーの養成研修を望む。

A 15 自然学校後の子どもたちの作文を見て、リーダーたちは子どもたちに自然に対することを教えずに、楽しさしか教えていないのだろうかと思うことがある。自然学校へ行って、子どもたちはもっと他に感じるべきものがあ

ると思うし、学校も楽しさだけでなく子どもたちにもっと他に感じて欲しいものがあると思っているのではないだろうか。

A 16 先生方は全面的にバックアップしてくれたが、もっとプログラムを立てたり、前に出て子どもたちを引っ張って欲しかった。少し指導補助員に任せすぎなどところがある。

A 17 どのくらい子どもに関わっていいのか迷う。

A 18 小学校によっては自然学校という行事に取り組む姿勢がまちまちで、一つのつらい、しんどい行事としかとらえていない先生が多い。そういった先生に限り、子どものことがよく見えていなかったりする。

いつも、先生とリーダーがどのような線を引き、どこまで手を出すかというさぐり合いをしているような状態である。初日は子どもたちが不安がっていることもあったりする。

打ち合わせ回数が少ないように思う。

A 19 自分の役割を把握せず、無責任な指導補助員とともに活動する自然学校は苦痛だった。

学校側でもっと確かな人選をして欲しかった。

A 20 指導補助員の質について。学校と補助員の自然学校に対する意志の疎通。

A 21 今回は初めてということもあって、何をどうすればよいのか分からない点もあったのですが、特に教師と指導補助員の境界が分からなくて、どこまで踏み込んでいいのか理解できず困りました。

第 II 部

自然学校を経験した5年生児童の保護者に関する調査

関西国際大学教授 高見 彰

神戸市外国語大学教授 山田 誠

兵庫県立南但馬自然学校指導主事 足立 純

兵庫県立南但馬自然学校指導主事 芦田 哲

【はじめに】

兵庫県の自然学校の中核施設として先導的な取り組みを行ってきた南但馬自然学校も設立10年を迎えようとしており、新しい方向性を探る時期にきている。過去の自然学校における教育実践や研究成果の蓄積から、自然学校後の体験が日常の学校、家庭生活の中では得ることができない満足感、充実感を得ることができ、児童に何らかの変化をもたらすことが明らかにされてきた。保護者の自然学校に対する評価も自然学校の開始当初に比べると肯定的なものになってきている。

しかし、自然学校のプログラムがマンネリ化したり、事後の効果が長続きせず、児童のライフスタイルに組み込まれるまでにいたっていないのではないかと懸念する声も聞こえることも事実である。その理由の一つとして、自然学校での体験が脱日常の行事に終わってしまい、学校や家庭においてもその後をフォローする体験が少ないことが考えられる。自然学校で体験したこと、身につけたことをその後の学校や家庭で日常的に体験できる環境を整えていかねばならない。

そのためには児童のさらなる自然体験と保護者自身が自然体験を行い、自然学校（自然体験）を深く理解することが必要であり、保護者が子どもと同じ空間、活動を体験することで一体感が生まれ、家族全体のコミュニケーションが活発になることが予想される。

子どもたちが家族とともに再度南但馬自然学校をおとずれ自然体験ができるよう、積極的に家族を受け入れる体制を整備する必要がある。家族を対象とするプログラム開発を行う場合、保護者が自然学校（自然体験）に対してどのような価値観をもち、南但馬自然学校における活動に何を求めているかを明らかにすることが重要である。したがって本研究の目的は、親子参加型プログラムの開発に寄与するため、保護者の自然学校に対する興味、関心、ニーズを探ることにある。

【方 法】

1. 調査方法

調査対象者については平成14年9月から平成14年11月に南但馬自然学校において自然学校を実施した小学校22校の学校長に対して保護者による質問紙調査を依頼した。調査票は小学校に郵送し、各学校において10件の家庭を無作為に抽出してもらい担当教諭を通して対象保護者に手渡し、回答後とりまとめて南但馬自然学校に郵送してもらう方法をとった。調査の実施時期については、自然学校開始直前に事前調査を、自然学校終了日から7日以内に事後調査を行った。回収数について事前調査、事後直後調査とも197人の回答を得た。回答者の内訳は母親94.8%、父親4.7%、祖母0.5%となっている。

2. 調査内容

保護者の自然学校に対する評価を調べるために、①自然学校前後の児童の態度変化をどのように見ているか、②自然学校後にどのような話をしたか、③自然学校を体験させてよかったか、④もう一度自然学校体験をさせたいか、⑤保護者自身が自然学校を体験したいか、について項目を作成し質問した。中でも①の児童の態度変容については、国立オリンピック記念青少年総合センターが事業参加者の変容測定のために作成した25項目からなる「少年版野外体験事業質問紙尺度〈保護者用〉」を用い、自然学校の直前と直後に実施した。

親子参加型自然体験プログラムに関する興味関心に関する調査項目については、平成8年度版の「自然・人・地域に学ぶ—南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ—」から保護者を対象とした調査結果を参考に独自の項目を加えながら作成した。

3. 分析方法

児童の態度変容に対する項目では、「あてはまらない」に0点、「少しあてはまる」に1点、「わりとあてはまる」2点、「かなりあてはまる」3点、「きわめてあてはまる」4点を与え得点化して、それぞれの平均値をもとに事前と事後間でt検定を実施した。t検定とは事前と事後の平均値の差が有意なものかどうかを検定するもので、平均値の差が誤差の範囲の変化であるか、そ

れ以上の変化であるかを確かめる統計手法である。その差が誤差の範囲を超える大きい効果と認められた場合にはt値と有意水準（***は0.1%水準、**は1%水準、*は5%水準で有意）を表に記し、誤差の範囲であまり変化の見られなかった項目は「n. s.」（有意ではないの意味）と記した。「5%水準で有意である」とは本当は「有意でない」のに「有意である」として間違える確率が5%以下（20回に1回以下）であることを表す。

因子分析は項目同士の関連の深いものから、その背後に潜む「因子」を抽出する統計的手法である。項目の背後にある共通の「何か」を問題にするために、項目レベルより安定した結果が得られる。具体的手順は省くが今回はSPSS（統計パッケージ）を用い統計処理した。その他の質問項目に関しては単純集計で得た値を分析に用いた。

【結果・考察】

1. 保護者がみた児童の態度変容

(1) 事前、事後の平均値の比較

表1は保護者がみた児童の変容の結果である。保護者が自然学校を通じて子どもの変化をどのように感じたかをみる項目である。項目毎に事前調査・事後直後調査の平均値と標準偏差を示し、t検定を行った。

保護者チェックでは、ほとんど全ての項目で事前よりも事後直後の方が得点が高くなっている。これは、保護者が子どもに対する自然学校の効果を実感していると考えられることができる。

事前から事後直後にかけて変容が大きかった項目を大きい順にあげると（増加分0.20以上の項目）、項目00「自然と人間の生活には深いかかわりがある」（0.36点増加）、項目05「食べていい木の実や草を知っている」（0.34点増加）、項目09「朝、人に起こされなくても自分で起きる事ができる」（0.32点増加）、項目04「脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる」（0.27点増加）、項目06「みんなの意見をまとめることが得意である」（0.26点増加）、項目05「自然の中に行くとき新しい発見がある」（0.26点増加）、項目02「工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる」（0.23点増加）、項目00「自然の中は気持ちがい

い」（0.22点増加）、項目02「歩いている途中で疲れていても、文句を言わないで歩き通すことができる」（0.21点増加）、項目03「だれとでも気軽に話ができる」（0.21点増加）などである。

項目00、項目05、項目05、項目00から、保護者は自然学校後の児童の自然意識や自然に対する感情的態度の変化を大きく評価しており、さまざまな自然体験を通して興味関心を高めるという自然学校のねらいにも合致している。

項目09と項目04から「朝一人で起きる」や「必要なものを持っていく」など、ものごとを自分で判断する能力で、このような面が自然学校によって向上したといえる。自主性・主体性を培い、判断力を身につけさせるという取り組みが児童に影響を及ぼし、家庭においても効果が出ていると思われる。

(2) 保護者がみた児童の態度変容に関する項目の因子分析

調査項目25項目を、主因子法・バリマックス回転を用いて因子分析したところ、解釈可能な6因子が抽出された（表2）。

第1因子は、積極的にリーダーを引き受ける、みんなの意見をまとめるのが得意であるなど、リーダーシップに関するもので、「リーダーシップ」と命名した。第2因子は、目標に向かって努力する、困難にであってもあきらめないなど、忍耐力や努力に関するもので、「自己成長性」と命名した。第3因子は、自然の中で新しい発見をすることに対する感動や喜び、自然と人間の関係理解など、自然意識や自然に対する感情的態度に表すもので、「自然への感性」と命名した。第4因子は、新しい友だちを簡単に作れる、だれとでも気軽に話ができるなど、よい対人関係を作る自信を表し、「対人関係スキル」と命名した。第5因子は、自分自身で衣服の整理や調整ができる、自分の判断で必要な物をもっていくなど、物事を自分で判断する能力を表し、「自己判断力」と命名した。第6因子は、朝自分で起きる、決められた時間に行くことができるなど、他人の力をかりずに自分を律して行動を起こすことに関するもので、「自律性」と命名した。

表1 保護者がみた自然学校前後の児童の態度変化

	事前テスト	事後テスト	事後-事前	
	Mean (SD)	Mean (SD)	平均値の増加分	t 値
N=193				
1 班長やリーダーを積極的にひきうけることができる	1.54 1.28	1.69 1.3	0.15	3.24 **
2 歩いている途中で疲れても、文句を言わないで歩き通すことができる	2.21 1.15	2.42 1.09	0.21	2.99 **
3 だれとでも気軽に話ができる	2.31 1.17	2.52 1.12	0.21	3.89 ***
4 決められた時間に遅刻しないで行くことができる	2.49 1.08	2.56 1.06	-	1.65 N.S.
5 食べていい木の実や草を知っている	0.58 0.83	0.92 1.04	0.34	6.22 ***
6 みんなの意見をまとめることが得意である	1.24 1.1	1.5 1.09	0.26	4.73 ***
7 友だちよりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張り通すことができる	1.99 1.08	2.17 0.99	0.18	2.86 **
8 新しい友達を簡単に作れる	2.22 1.18	2.4 1.17	0.18	4.2 ***
9 朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる	1.64 1.28	1.96 1.33	0.32	4.75 ***
10 自然と人間の生活には深いかかわりがあると思う	1.94 1.11	2.23 1.14	0.36	3.9 ***
11 何かをやろうとすると、リーダーになってやる方だ	1.49 1.32	1.66 1.28	0.17	3.2 **
12 工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる	2.05 1.14	2.28 1.07	0.23	3.49 **
13 遊んでいる仲間にあとから加わることができる	2.23 1.07	2.36 1.08	0.13	2.5 *
14 脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる	1.55 1.26	1.85 1.25	0.3	5.52 ***
15 自然の中に行くと新しい発見がある	2.07 1.08	2.33 1.08	0.26	3.88 ***
16 みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ	1.51 1.15	1.69 1.2	0.18	3.04 **
17 できないことがあるとできるようになるまで努力しつづける方だ	1.76 1.12	1.92 1.09	0.16	3.1 **
18 必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える	2.58 1.09	2.63 1.08	-	0.89 N.S.
19 暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる	2.34 1.14	2.49 1.09	0.15	2.38 *
20 自然の中の活動は気持ちがいい	2.66 1.02	2.88 1.01	0.22	3.64 **
21 困っている友だちを助けてあげることができる	2.59 0.96	2.67 0.96	-	1.28 N.S.
22 出かけるときには、何が必要なのか自分で判断し必要なものを持っていくことができる	2.17 1.08	2.36 1.07	0.19	3.18 **
23 天候の変化が敏感にわかる	1.57 1.01	1.76 1.06	0.19	3.22 **
24 大人や年上の人に自分の考えを言える	1.75 1.07	2.02 1.1	0.27	4.26 ***
25 草花や自然の景色を見て感動することがある	2.31 1.13	2.43 1.08	-	1.84 N.S.

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

このように、今回用いた25項目の尺度から「リーダーシップ」、「自己成長性」、「自然への感性」、「対人関係スキル」、「自己判断力」、「自律性」という6つの因子を抽出することがで

きた。これは自然学校による児童の態度変容を説明するキーワードになりえることと保護者が自然学校に期待することととらえることができる。

表2 保護者がみた自然学校評価項目の因子分析結果

因子名	項目名	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6	
リーダーシップ	(11) 何かをやるうとするとき、リーダーになってやる方だ	.83	.08	.04	.29	.04	.06	
	(1) 班長やリーダーを積極的にひきうけることができる	.81	.05	.00	.30	-.03	.11	
	(6) みんなの意見をまとめることが得意である	.80	.10	.03	.17	.13	.13	
	(24) 大人や年上の人に自分の考えを言える	.56	-.19	.13	.29	.31	-.18	
自己成長	(7) 友だちよりうまくできないことがあっても、いやになったりせず頑張り通すことができる	-.08	.77	.12	.08	.16	.14	
	(17) できないことがあるとできるようになるまで努力しつづける方だ	.23	.76	.16	-.08	.28	-.03	
	(2) 歩いている途中で疲れても、文句を言わないで歩き通すことができる	-.08	.63	.18	.11	-.07	.13	
	(12) 工作している途中で、失敗した部分があっても、自分で工夫して作品を完成させることができる	.15	.59	.28	-.04	.09	.23	
	(16) みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ	.46	.58	.32	-.00	.08	.10	
(14) 脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる	-.11	.45	-.02	.08	.43	.35		
自然への感性	(15) 自然の中に行くとき新しい発見がある	.06	.17	.79	.09	.04	.23	
	(25) 草花や自然の景色を見て感動することがある	-.05	.19	.78	.09	.28	-.07	
	(10) 自然と人間の生活には深いかわりがあると思う	.10	.24	.70	.06	-.05	.30	
	(20) 自然の中の活動は気持ちがいい	.02	.15	.61	.20	.36	-.06	
	(23) 天候の変化が敏感にわかる	.25	.20	.44	-.13	.36	.30	
対人関係スキル	(3) だれとでも気軽に話ができる	.18	-.03	.09	.83	.02	.06	
	(8) 新しい友達を簡単に作れる	.30	-.06	.08	.81	-.05	-.01	
	(13) 遊んでいる仲間にあとから加わることができる	.26	.05	-.00	.64	.11	.07	
	(21) 困っている友だちを助けてあげることができる	.19	.28	.17	.52	.37	-.00	
自己判断力	(19) 暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる	.13	.17	.24	.02	.74	.01	
	(22) 出かけるときには、何が必要なのか自分で判断し必要なものを持っていくことができる	.18	.22	.09	.08	.73	.26	
	(18) 必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える	-.03	.18	.24	.43	.49	.02	
自律性	(9) 朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる	.10	.10	.11	.02	-.02	.75	
	(4) 決められた時間に遅刻しないで行くことができる	-.07	.20	-.00	.08	.37	.69	
	(5) 食べていい木の実や草を知っている	.17	.15	.32	.04	.03	.56	
因子寄与 寄与率		3.00 12.00	2.97 11.8	2.83 11.3	2.62 10.50	2.37 9.47	1.96 7.85	15.8 63

2. 帰宅後の会話内容からみた南但馬自然学校

図1は児童が自然学校から帰って保護者と交わした話の内容についてまとめたものである。会話の内容から児童が自然学校でどのような点に強い関心を受けたかを推察しようと試みた。

「食事のこと」「プログラムのこと」「友だちのこと」の項目について8割以上が、また「指導補助員のこと」については7割を超える児童が関心を示していた。逆に「宿舎建物」「自然との関わりのこと」「自然学校で出会った地元の人のこと」「自然学校の職員のこと」など項目については比較的低い割合となっている。

この結果から、参加児童は期間中のプログラム活動を通して主に指導補助員や友人との関わりを中心に体験していることがうかがえる。また、食事について高い関心を示したことも特徴といえる。これは野外料理づくりに代表される「プログラムとしての食事」に強い関心を示したのか、頻繁に利用した「食堂における食事」に強いインパクトがあったのか、この質問項目からは厳密に識別できないが、南但馬自然学校職員から本施設の食堂については他の利用者からも「おいしい」と高い評価を得ている旨の情報を得た。これは、好みに合わせて取る量を調節できるカフェテリア方式を採用していること、地元の米、食材を調理していること、初日にステーキを出すなど、子どもたちの食事に対する関心をひき出すメニューの工夫がなされていることが主な理由と考えられる。

しかしながら、「自然との関わり」「地元の人のこと」など南但馬自然学校がもつ固有の環境、

人的資源に対する関心が低いという点から、いくつかの課題をうかがうことができる。一つは自然学校で展開されている活動範囲が南但馬自然学校の施設内部で完結してしまい、周辺部も含めた地元との関わりを持つまでにいたっていないのではないか。また、人間関係重視に偏ることによって自然との関わり、地元地域との関わりを深く学ぶことが欠落しているのではないか、という点である。今後、南但馬自然学校においても、本施設に特有のプログラムや地元資源を活かすプログラム開発と小学校に対しての啓発をはかっていかねばならない。

3. 保護者の自然学校に対する意識

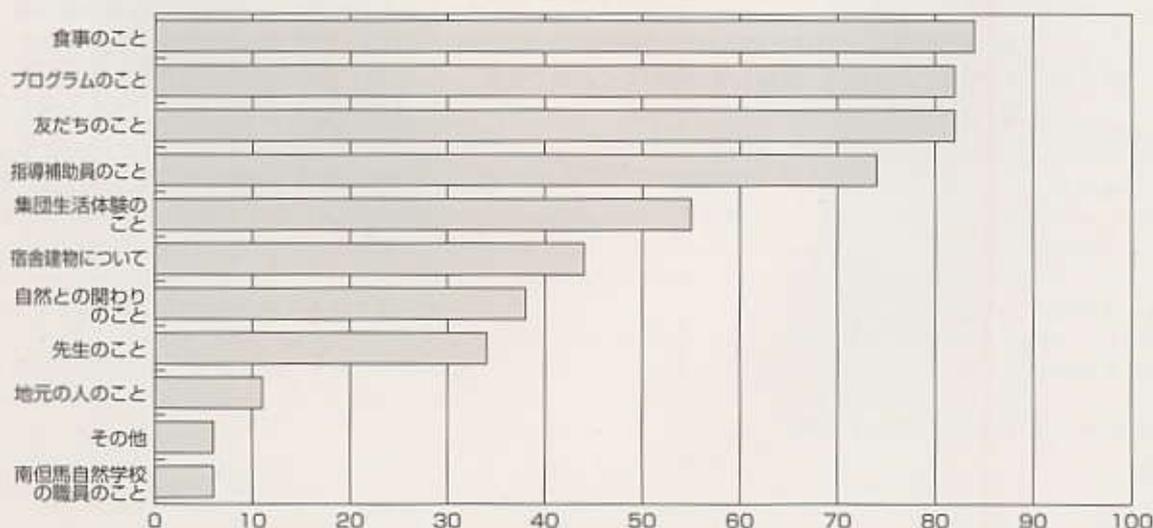
(1) 自然学校を体験させたことによる満足

図2から98%の保護者が自然学校を体験させてよかったと答えている。また、その理由として図3で示したとおり「ふだん体験できないことができた」(89.6%)、「楽しい体験だった」(69.9%)、「自主性や協調性が養えた」(63.7%)が主な理由と

図2 自然学校を体験させてよかったか



図1 帰宅後の会話の内容



なっている。逆に、「手伝いをするようになった」(20.2%)、「集団生活でがまん強くなった」(15.6%)、「やり遂げることを学んだ」(15.0%)、「保護者への感謝への気持ちをもつようになった」(10.9%)の項目は低い値となっている。これらの結果から保護者は、脱日常圏の自然学校において楽しい体験ができ自主性や協調性が養えたと感じている一方で、自然学校での体験が家事を手伝う、がまんする、やり遂げるなどその後の児童の態度変容に結びついていないことも示唆している。

(2) 子どもに再度自然学校体験をさせたいか
図4で示したとおり、保護者の93%が再度自然

学校のような体験をさせたいと感じている。また、させたくないと答えた保護者は3.2%で、図5に示すとおり「期間が長すぎる」、「学習が遅れる」、「体調心配」を主な理由にあげている。

図4 自然学校体験を再度体験させたいか
させたくない 3% どちらでもない 4%

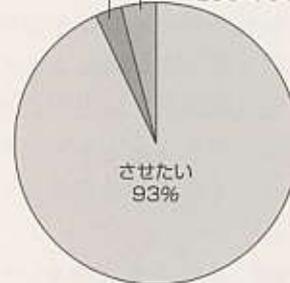


図3 自然学校に参加させてよかったと思う理由

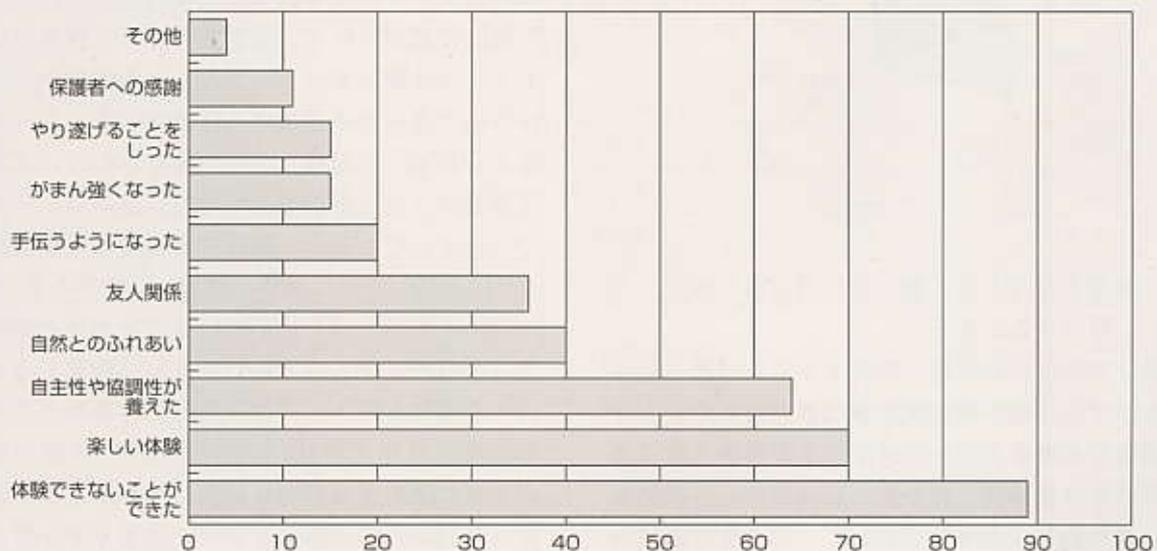
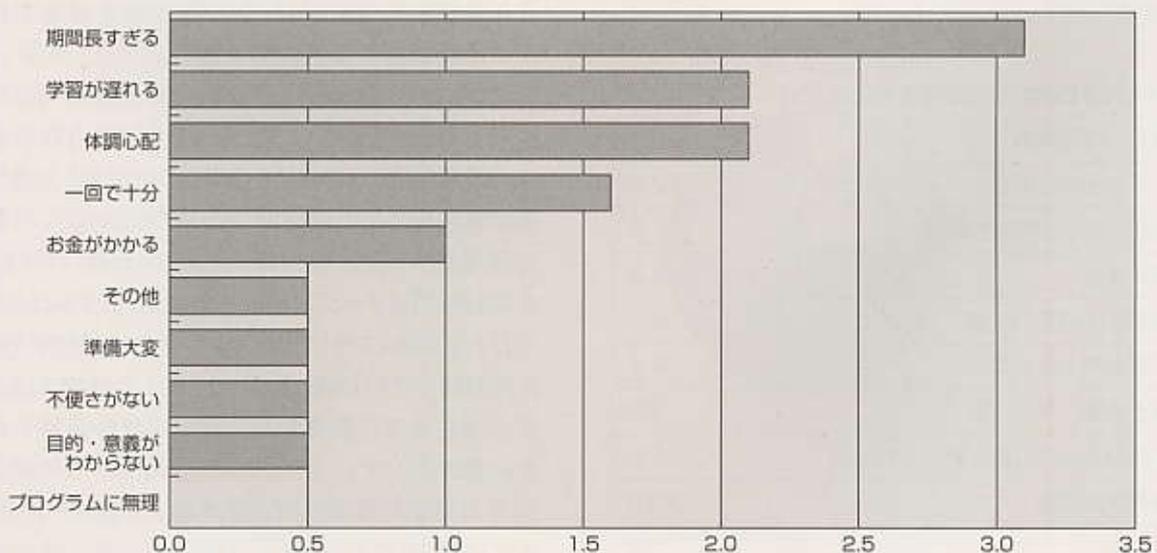
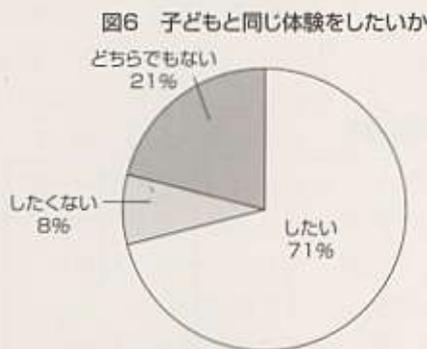


図5 参加させたくない理由



(3) 保護者自身の自然学校体験の希望

保護者自身も児童と同じ体験をしてみたいかを尋ねたところ、図6に示すように71%の保護者が体験したいと答えている。子どもの自然学校後の反応を評価して自身も追体験したいと感じていると推察できる。小学校5年生の自然学校体験の成果を持続させ強化するためには学校教育の中で継続的に同種の取り組みを継続していくことと、家庭における自然体験理解と協力が必要となる。南但馬自然学校においても家族を対象とした事業展開が必要であり、その潜在的需要は十分に有すると判断できる。



4. 保護者が考える「親子参加型自然学校」

(1) 期待すること

親子参加型自然学校に期待することは表3に示すとおり、「親子の共同体験の機会にしたい」が42.5%を占める。次いで「子どもが体験したことと同じことを体験したい」(17.6%)、「自然の美しさや厳しさを体験したい」(16.6%)と続いている。親子が共同で体験できるプログラムを中心にしながら自然、人、地域の交流を図れる時間を提供したい。

表3 親子自然学校に期待すること(%)

親子の共同体験	42.5
子どもと同じ体験	17.6
自然の美しさ厳しさを体験	16.6
自然体験	5.2
参加家族相互の交流	4.1
子ども同士の交流	4.1
郷土芸能、年中行事	3.6
土地の人々の人柄人情にふれたい	2.6
農林水産活動	30.6
その他	1.0

(2) 具体的なプログラム

現在、南但馬自然学校で実施されている主な活動から、保護者が希望する活動をまとめたものが表4である。「アウトドアクッキング」(48.7%)、「温泉」(46.1%)「キャンプファイヤー」(40.4%)「カヌー」(38.3%)「手打ちそば・うどん」(37.8%)「キャンプ」(35.6%)「スキー・スノーボード」(33.2%)「陶芸」(31.6%)「スターウォッチング」(30.6%)「サイクリング」(30.6%)が3割以上の保護者が行いたいと感じている活動である。

「アウトドアクッキング」や「キャンプファイヤー」については自然学校においても定番の活動であり、児童と保護者の間で交わされた会話で話題に上ることが多く、保護者の中にも強く印象づけられたことが考えられる。また、これらの活動はキャンプや林間学校などでは古くから行われ、一般的に認知されている活動である。保護者自身も過去に体験しており、どのような活動かが容易に想像できるため選択する保護者が多くなったと考えられる。「温泉」が高い値を示したことから保護者は「親子参加型自然学校」をレジャー活動の一環としてとらえ、後述する保護者の余暇観でも明らかのように、身体の休息、心の安らぎ、日常生活からの開放感を求めていることがうかがえる。

「手打ちそば・うどんづくり」「陶芸」など手作りを楽しんだり、「カヌー」「スキー・スノーボード」「サイクリング」などのアウトドアスポーツに挑戦するという傾向もうかがえるが、直接自然にふれる活動は「スターウォッチング」を最上位に必ずしも高い割合を示していない。また、「農作業」(18.1%)、「酪農体験」(13.0%)、「林業体験」(4.7%)など地域の主産業を体験する活動に対する選択率が低い。

これらの一連の傾向は、前述の現在南但馬自然学校で行われているプログラムが、南但馬自然学校固有の資源を生かしきれていないという結果と共通する。選択率の低かった活動は、「行いたくない」という拒否的態度ととらえるよりは、体験したことがないから活動そのものの「イメージがわからない」と解釈するほうが妥当だと思われる。今後、親子参加型自然学校プログラムを企画する際には、希望が高かった活動のみならず、さまざまな自然体験活動、地域理解活動を積極的に組み込んでいく必要がある。そのような活動は南但馬自然学校職員がイニシアティブをとって押し進めていく必要がある。

表4 実施してみたい活動内容 (%)

アウトドアクッキング	48.7	森林オリエンテーリング	17.1
温泉	46.1	地引き網	17.1
キャンプファイヤー	40.4	ハングライダー	15.0
カヌー	38.3	村祭りや地域の伝統文化に触れる	14.0
手打ちそば・うどんづくり	37.8	オートキャンプ	13.5
キャンプ	35.6	バードウォッチング	13.5
スキー・スノーボード	33.2	マウンテンバイク	13.0
陶芸	31.6	酪農体験	13.0
スターウォッチング	30.6	海釣り	12.4
サイクリング	30.6	基地づくり	12.4
森林浴	29.5	ナイトハイク	11.9
きのこ・山菜取り	28.0	雪上活動	11.4
自然観察	27.5	ネイチャーゲーム	10.9
自然物を使った工作	26.4	木陰で読書	10.4
溪流釣り	25.4	餅つき	9.3
パラグライダー	23.3	ボードセーリング	8.8
登山	22.8	わら細工	8.3
フィールドアスレチック	20.2	スケッチ	8.3
木陰で昼寝	20.2	林業体験	4.7
ハイキング	20.2	その他	1.0
農作業	18.1		

(3) 主たる活動単位

親子参加型自然学校を運営していく単位は図7に示したとおり、「主に参加家族全体で活動するが、自分の家族で楽しむ時間もほしい」

(39.6%)、「主に自分の家族で活動するが、参加家族全体で楽しむ時間もほしい」(35.9%)、「参加家族全員で活動したい」(21.4%)、「自分の家族だけで活動したい」(3.1%)の順になっている。これらの結果から、参加家族全体で動くには自由度が少なく感じ、自分たちの家族だけで動くにはこのような交流プログラムに参加する意味がないという姿が見える。図8の施設職員の関わり方についても、「指導が一部必要」(80.4%)「全面的に必要」(16.3%)と97%の家族が指導アドバイスを必要としている。

上記のニーズに対応する方法として、参加家族全体で活動する方が効果的であるプログラムを除き、すべての活動を参加選択型にすることで、運営単位の上位2項目を満たす活動単位になる。施設が活動を提供、指導し、家族でそれに参加する

かどうかを決める。そこで家族の話し合いがもたれ、選択することで家族の自主性を促すことも可能である。家族によってすべての活動に参加することも可能だし、家族の時間が自由にとれるメリットがある。運営の一方法として考慮する必要がある。

図7 主たる活動の単位

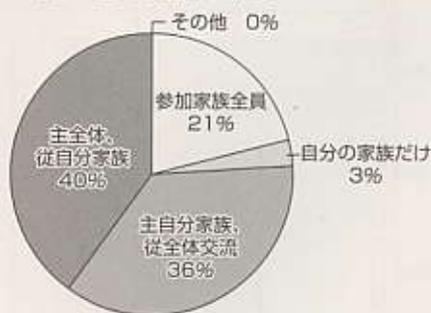
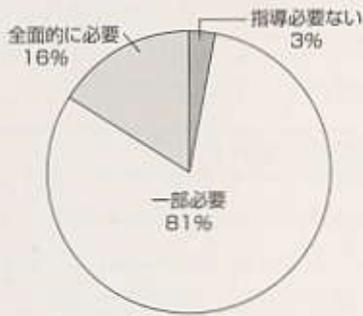


図8 施設職員の関わり方



(4) 実施時期

実施の季節については図9にみられるように「夏」(45.6%)、「秋」(45.1%)とほぼ同じ割合で、約半数が希望している。また、「春」(36.3%)「季節を問わず」(21.8%)と続き、「冬」(6.7%)が最も低い割合になっている。

開催日について、図10をみると、「子どもの長期休暇中」(68.9%)が最も多く7割の保護者が希望している。次いで「連休」「週末」の順に低くなっている。

図9 希望する季節

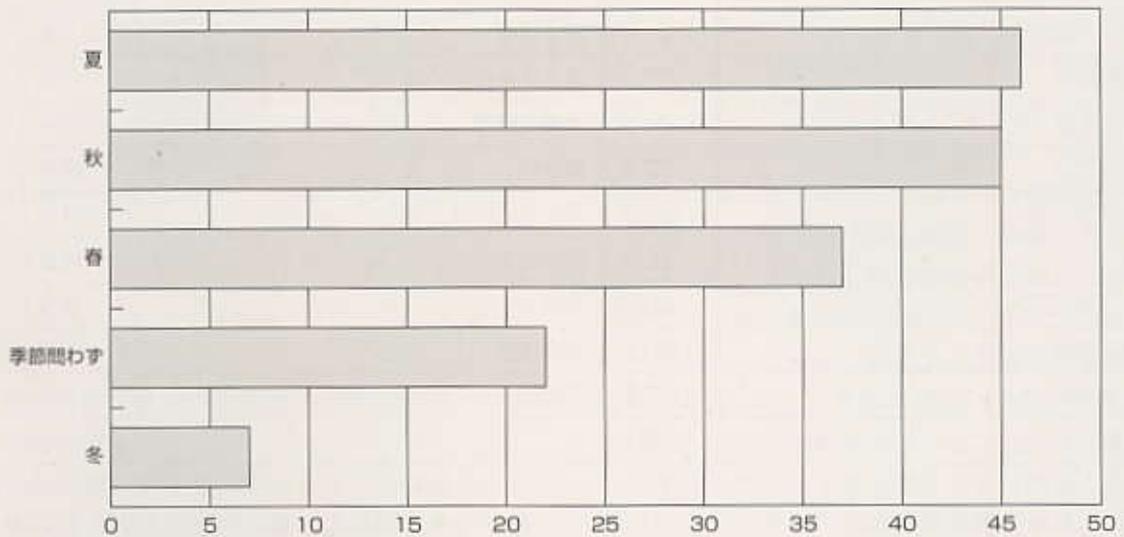
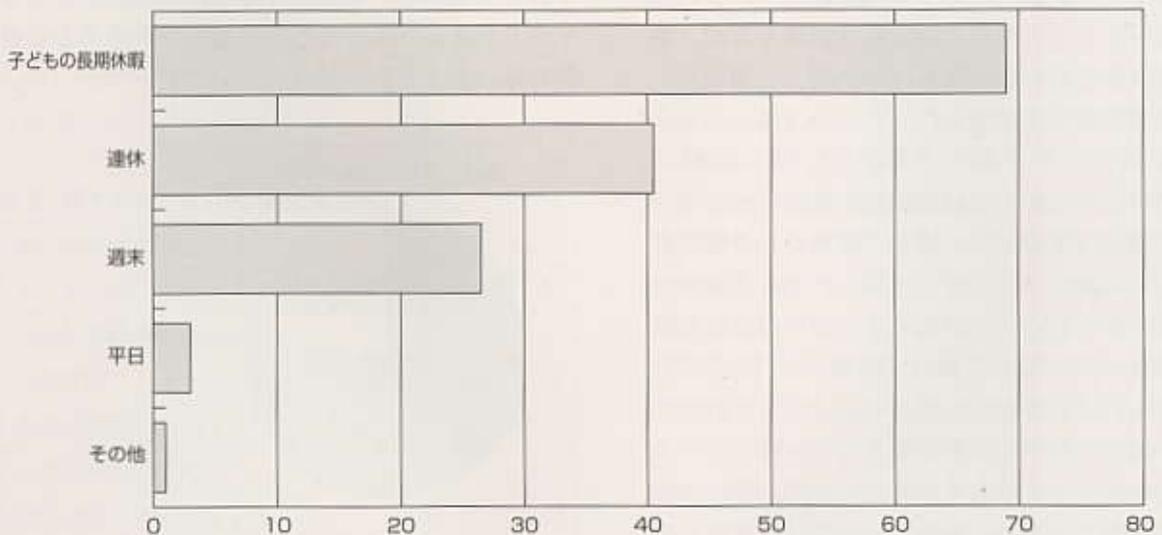
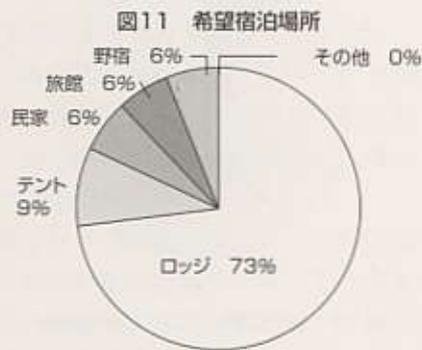


図10 開催日



(5) 宿泊施設

希望する宿泊施設は図11にみられるように「ロッジ」が73%と大半を占め、その他の宿泊形態に対する希望は低い。南但馬自然学校は子どもたちの長期滞在に対処できるよう充実したロッジの作りになっている。本施設のロッジ泊を主に利用することは親子参加型自然学校の特色の一つとしてアピールすることができる。しかし、ロッジを使用しながらも、家族単位のプライバシーを配慮できる部屋割りにすることも必要であろう。また、主たる宿泊形態にはならなかったが、テント泊や民家泊などプログラムの一部としてより積極的に取り入れることによって、より自然、地域を肌で感じる機会を提供できると考えられる。



(6) 宿泊数

宿泊数は図12に示すとおり、2泊が56%と最も多く半数を超えている。次いで3泊が29%と続き、両者で8割を超えている。児童と同じ5泊は3%と少なく、長期泊数から得られる自然学校の効果を追体験することは難しいといえる。



(7) 参加費

「親子参加型自然学校」の期間を2泊3日とした場合、適当と考える参加費を千円単位でたずねた。各家庭ごとに家族数が異なるので交通費を含めて大人1人に費やしてもよいと考えられる費用を尋ねることとした。回答された金額を1万円未満、1万円台、2万円台、3万円台、4万円以上の5つのカテゴリーに再集計したものが図13である。最も多いのが「1万円台」で48.7%、次いで「2万円台」の31.6%となっている。平均は2泊3日17,605円であるが交通費2,000円と仮定した場合、大人1日5,000円程度が最も適正な参加費として考えられる。



(8) 南但馬自然学校に対する関心

児童との会話や本調査内容から、「少し興味をもった」(55.4%)、「大変興味をもった」(41.9%)と97%の保護者が南但馬自然学校に対して興味を持っていることがうかがえる。(図14)

親子参加型自然学校の募集にあたり、南但馬自然学校に来校した小学校児童の保護者に対して募集告知を行えば、参加率が高まると考えられる。

図14 南但馬自然学校に対する興味



5. 保護者自身の余暇観

保護者自身の余暇に対する価値観を探ることは今後、家族を対象としたイベント、プログラムを作成する上で、重要なポイントとなる。今回は余暇に対する楽しみや目的という形で保護者に尋ね表5にまとめた。

半数以上の保護者が反応した項目は「家族の交流」(73.1%)「心の安らぎ」(63.2%)「日常生活からの開放感」(51.8%)「友人との交流」(51.3%)「身体の休息」(51.3%)「自然にふれる」(50.3%)の順となっている。逆に反応が低かった項目は「賭」(0.5%)「競争」(0.5%)「実益に結びつくこと」(1.0%)「技術の向上」(3.6%)「推理、想像」(4.1%)「ぜいたくな気分にあびたい」(5.2%)「スリルを楽しむ」(5.2%)「仕事や学習に役立つ」(6.2%)である。このことから保護者の多くは、余暇には自然の豊かな脱日常の環境に身を置き、家族を含めた他者との交流を求めていることがわ

表5 余暇に求めるもの (%)

家族の交流	73.1
心の安らぎ	63.2
日常生活からの開放感	51.8
友人との交流	51.3
身体の休息	51.3
自然に触れる	50.3
健康体力向上	22.8
知識・教養	18.7
つくる喜び	17.6
芸術、美的関心	17.6
好奇心	17.6
創造力を発揮する	13.0
仕事への意欲	12.4
仕事や学習に役立つ	6.2
社会に役立つこと	5.7
ぜいたくな気分にあびたい	5.2
スリルを楽しむ	5.2
推理想象	4.1
技術の向上	3.6
実益に結びつくこと	1.0
賭、偶然	0.5
競争	0.5

かる。また、自分自身の実益に結びつくことや一時的な時間の使い方には関心を示していないことがわかる。自然学校では自然に触れながら交流を図るプログラムが用意されており、児童の教育の場としての役割のみならず、保護者の余暇に対するニーズを十分に満たす環境が整備されているといえる。

さらに自然に対する関心では図15と図16から「非常にある」「少しある」を合わせると9割の保護者が自然に関心を示しており、自然体験のイベントやプログラムに半数の保護者が参加経験を有している。

図15 保護者自身の自然への関心

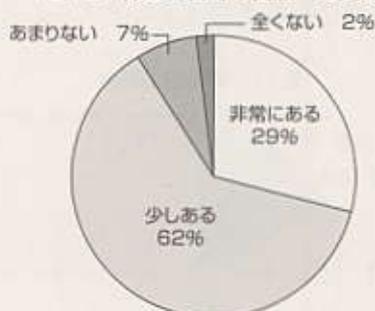
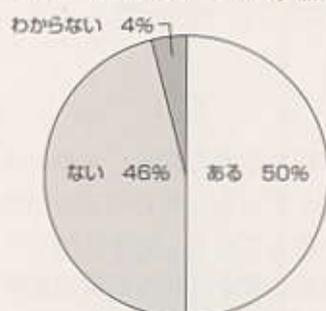


図16 自然体験イベントの参加経験



【ま と め】

本研究では南但馬自然学校の新たな事業展開を探るべく、親子による自然体験活動の可能性とニーズをさぐることを目的に、南但馬自然学校におとずれた小学校児童の保護者を対象に調査を行った。その結果、次のことが明らかになった。

1. 保護者は自然学校を体験した児童の自然意識や自然に対する感情的態度の変化および自主性、主体性の向上を評価している。
2. 保護者は、自然学校で「リーダーシップ」、「自己成長」、「自然への感性」、「対人関係スキル」、「自己判断力」、「自律性」が身につくことを期待している。

3. 児童は南但馬自然学校において「食事」、「プログラム」、「友達」に強いインパクトを受けている。
4. 98%の保護者は児童を自然学校に参加させて良かったと感じており、93%の保護者が再度自然学校を体験させたいと感じている。また71%の保護者が自身も児童と同じ体験をしたと感じている。
5. 親子参加型自然学校では、「野外料理」、「温泉」、「キャンプファイヤー」などの諸活動を家族で楽しむ機会にしたいと考えている。
6. 保護者がのぞむ親子参加型自然学校のイメージは、夏から秋にかけて2泊3日で行われ、ロッジ泊を主にして参加費は大人1人15,000円程度が適当と考えられている。
7. 南但馬自然学校に興味を抱いている保護者は97%と非常に高く、自然体験活動に対する興味も関心も高い。また半数が自然体験イベントに参加経験がある。
8. 保護者自身の余暇観は、「日常生活圏からはなれ自然の豊かな場所で家族や友人との交流の中から心の安らぎを得たい」という姿をうかがうことができる。

今回の調査結果から自然学校と南但馬自然学校に対する評価と新たな事業展開を考える上での基礎資料を得ることができたものの、いくつかの課題を残した。一つには態度変容測定では事前、事後直後の比較を行ったが、その後の変化をとらえることができなかった。一か月後、半年後、1年後に自然学校の効果がどのように変化していくかを押さえないと、真の意味での効果を測定できないと思われる。次に調査対象を保護者に限ったため、児童の意見を組み込むことができなかったことにある。態度変容測定では保護者と児童では変容の項目がことなるかもしれない。また、親子参加型自然体験活動では、保護者と異なる指向をもっていることも想定される。今後、それらの課題を解決すべく調査を重ねていかねばならない。

【引用・参考文献】

1. 国立オリンピック記念青少年総合センター事業課編：「事業効果測定のための調査費とその利用法—主催事業評価の一方法としての参加者の変容測定方法の開発に関する調査研究報告書—」、国立オリンピック記念青少年総合センター、2001年
2. 南但馬自然学校プログラム研究委員会：「自然・人・地域に学ぶ—南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ—」、兵庫県立南但馬自然学校、1996年
3. 中野友博、高見彰、山田誠：「兵庫県自然学校の発展に向けて—自然学校の実態についての調査（報告）—」、兵庫野外教育研究会、2000年

付 録

南但馬自然学校が提案する親子参加型自然学校（例）

例 1

登山：クラフト：うどんづくり：星空観察

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
午 前	開校式 コミュニティーゲーム	登山	うどんづくり
午 後	自然観察ビンゴと山菜取り 野外炊飯	自然物クラフト（登山中に集めた 材料を使って）	閉校式 温泉
夜	星空観察	キャンプファイヤー	

例 2

野外炊飯（2～3回）：サイクリング：温泉：テント泊

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
午 前	開校式 コミュニティーゲーム	野外炊飯（朝食） サイクリング	早朝登山、昆虫・野鳥観察
午 後	薪集め・かまどづくり テント泊準備 野外炊飯	温泉	閉校式
夜	ナイトハイク テント泊	キャンプファイヤー	

例 3

ハイキング：森林浴：自然観察

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
午 前	開校式 コミュニティーゲーム	ハイキング	川遊び
午 後	自然観察、森林浴 野外炊飯	野外炊飯	閉校式
夜	ナイトハイク	キャンプファイヤー	

調査を終えて

今回のプロジェクトでは研究期間も実質1年半の期間を与えられ、構想と準備、本調査半年、調査実施と分析に1年をかけることができ、質が高くボリュームのあるデータを得ることができました。研究方法も科学的セオリーに基づいて調査し分析しましたので、結果は客観性が保たれているのではないのでしょうか。内容的には指導者の実態や保護者の見方が明らかになり研究として大いに成果があったように思います。

詳しい内容は各報告をご覧いただければわかるのですが、特にふれておきたいことがあります。それは予想されていたことですが、指導補助員の質を高める方策が真剣に考えられなければならないということです。単に児童の面倒を見てもらうレベルで扱うのか、もっと自然学校の内容を高めるための力量を身につけてもらうのかを議論しなければなりません。

保護者の調査からは、保護者は自然学校に肯定的であることがわかりましたが、この結果を生かすべく親子参加型自然学校の実現を図りたいものです。

最後に、調査に答えていただいた指導補助員の皆様、保護者の皆様ありがとうございました。また、調査にご配慮いただいたり手伝っていただいた関係者の皆様に感謝いたします。

調査にあたっては南但馬自然学校調査研究委員の皆様にご奔走していただき、データ入力と分析にも相当の時間を費やしていただきました。本当にご苦労さまでした。お疲れさま。

今回の研究体制と成果が今後の自然学校事業に役立つことを願っております。

平成 15 年 3 月

兵庫県立南但馬自然学校
調査・研究委員会

委員長 山 田 誠

臺灣省教育廳編印
（九年級自然科用書附屬資料，科學卷）

補 足 資 料

兵庫県自然学校指導補助員に関する実態調査 (調査主体：兵庫県立南但馬自然学校)

〈 お 願 い 〉

本調査は、今後の兵庫県下の自然学校をより充実したものにするための基礎的な資料を得るためのものです。調査結果も統計的に処理されるので、ご記入内容によって皆様方にご迷惑をお掛けするようなことは絶対にごさいます。本調査の主旨をご理解いただきまして、なにとぞ調査にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

記入の仕方

1. 答え方は当てはまる番号を○で囲むものと、() や の中に記入するものがあります。
2. 特に指示がない限り、番号には1つだけ○をつけてください。
3. もれなく、出来るだけ全部の質問にお答えください。

Q 0. あなたにとって、このアンケート調査は何回目ですか？

 回目

Q 1. 今回、南但馬自然学校で指導補助員を行うのは今年度中、何回目ですか？

 回目

Q 2. 今回の自然学校指導補助員はあなたにとって何回目の経験ですか？

 回目

Q 3. あなたは1年間に何回程度、指導補助員をしますか(したいですか)？

 回程度

Q 4. あなたは自然学校指導補助員を始めて、今年で何年目ですか？

 年

Q 5. 今回の自然学校指導補助員募集について、どこで知りましたか？

1. 市町等の広報誌
2. 所属する学校・大学
3. 所属する団体
4. 知人、友人などからの紹介
5. 教育委員会
6. 南但馬自然学校
7. 実施小学校
8. その他 ()

16. バードウォッチングを指導できる	1	2	3	4	5
17. 星空観察を指導できる	1	2	3	4	5
18. ナイトプログラムを指導できる	1	2	3	4	5
19. キャンプソングを指導できる	1	2	3	4	5
20. 地域研究について指導できる	1	2	3	4	5
21. けがや急病の応急手当ができる	1	2	3	4	5
22. その他1()	1	2	3	4	5
23. その他2()	1	2	3	4	5

Q17. プログラムへの関わり方についておたずねします。自然学校での児童との関わり方はいかがでしたか？

1. 生活指導が中心であった
2. プログラム運営、活動の指導が中心であった
3. 生活指導およびプログラム運営、活動の指導の両方に関わった
4. その他 ()

Q18. 個々の活動についておたずねします。以下に示すそれぞれの項目の中で今回行った活動の状況について、最も近い番号に1つ○をつけてください。

	教員が 主導的であった	指導補助員が 主導的であった	今回は 行わなかった			
1. テント設営	1	2	3	4	5	9
2. ロープワーク	1	2	3	4	5	9
3. ネイチャークラフト	1	2	3	4	5	9
4. 野外炊事	1	2	3	4	5	9
5. キャンプファイヤー	1	2	3	4	5	9
6. 野外ゲーム	1	2	3	4	5	9
7. 山登り	1	2	3	4	5	9
8. オリエンテーリング	1	2	3	4	5	9
9. ウォークラリー	1	2	3	4	5	9
10. サイクリング	1	2	3	4	5	9
11. 雪上活動	1	2	3	4	5	9
12. 水辺活動(カヌー、カッター、川遊び等)	1	2	3	4	5	9
13. 冒険活動	1	2	3	4	5	9
14. 環境教育プログラム	1	2	3	4	5	9
15. 自然観察	1	2	3	4	5	9
16. バードウォッチング	1	2	3	4	5	9
17. 星空観察	1	2	3	4	5	9
18. ナイトプログラム	1	2	3	4	5	9
19. キャンプソング	1	2	3	4	5	9
20. 地域研究	1	2	3	4	5	9

21. 応急手当	1	2	3	4	5	9
22. 生活指導	1	2	3	4	5	9
23. その他1()	1	2	3	4	5	9
24. その他2()	1	2	3	4	5	9

Q19. 再度、自然学校指導補助員をやりたいですか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

↓

「はい」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか？（複数回答可）

1. 自然が好きだから 2. 子供が好きだから
 3. 教育に関わってみたいから 4. お金がもらえるから
 5. 将来のため 6. ますます興味がわいたから
 7. 人間関係が広まったから 8. 楽しかったから
 9. その他()

→ 「いいえ」と答えた方におたずねします。
 その理由は何ですか？自由にお書きください

Q20. 自然学校指導補助員を経験して良かったこと・得たものについてご自由にお書きください。

Q21. 自然学校指導補助員を経験して不満なこと・望むことについてご自由にお書きください。

《最後にあなた自身についておたずねします》

●年 齢 () 歳

●性 別 男 ・ 女

●以下の該当するものに○をつけてください

1. 大学生 2. 専門学校生 3. 定職者 4. フリーター
5. 無 職 6. その他 ()

(学生の方は以下で該当するものに○をつけてください)

1. 1回生 2. 2回生 3. 3回生 4. 4回生 5. 5回生以上
 1. 教育・保育系 2. 福祉系 3. 体育系 4. 環境系
5. その他 ()
 今回の自然学校指導補助員を担当する際、学校の授業をどうされましたか？
1. 休んで参加した 2. もともと休みであった 3. 公認欠席扱いであった
4. その他 ()

(定職者の方は以下で該当するものに○をつけてください)

1. 会社員 2. 自営業 3. 公務員 4. 教職員 (非常勤含む)
5. その他 ()
 今回の自然学校指導補助員を担当する際、仕事をどうされましたか？
1. ボランティア休暇 2. それ以外の休暇 3. その他 ()

担当した小学校名 () 小学校

日程：平成14年 月 日～ 月 日

《ご協力ありがとうございました。》

自然学校についてのアンケートのお願い

(調査主体：兵庫県立南但馬自然学校)

兵庫県立南但馬自然学校は平成6年4月、自然学校の中核施設として開校し、自然学校の受け入れはもちろん自然学校をさらに充実させるためプログラム開発や調査研究を進めています。

本年度は自然学校に参加した児童の自然体験と保護者の皆様のかかわりについて調査研究し、自然学校事業の改善に役立つ資料にしたいと考えています。お子さまが自然学校から戻られましたら再度、同様のアンケート調査に回答していただくこととなりますが、回答していただいた調査票は統計的処理をおこない、上記の目的以外に使うことはございません。つきましては、ご多忙のところお手数をおかけいたしますが本アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

問1. あなたのお子さまは5年 () 組

問2. お子さまの性別 (男子 ・ 女子)

問3. 今回の自然学校に参加されるお子さまについて、当てはまるところに○をつけてください。

きわめて かなり わりと すこし あてはま
あてはまる あてはまる あてはまる あてはまる らない

(例) よく手伝いをするほうだ

	○		
--	---	--	--

(1) 班長やリーダーを積極的にひきうけることができる

--	--	--	--

(2) 歩いている途中で疲れても、文句を言わないで

歩き通すことができる

--	--	--	--

(3) だれとでも気軽に話ができる

--	--	--	--

(4) 決められた時間に遅刻しないで行くことができる

--	--	--	--

(5) 食べていい木の実や草を知っている

--	--	--	--

(6) みんなの意見をまとめることが得意である

--	--	--	--

(7) 友だちよりうまくできないことがあっても、

いやになったりせず頑張り通すことができる

--	--	--	--

(8) 新しい友達を簡単につくれる

--	--	--	--

(9) 朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる

--	--	--	--

(10) 自然と人間の生活には深いかかわりがあると思っている

--	--	--	--

(11) 何かをやろうとするとき、リーダーになってやる方だ

--	--	--	--

(12) 工作をしている途中で、失敗した部分があっても、

自分で工夫して作品を完成させることができる

--	--	--	--

(13) 遊んでいる仲間にあとから加わることができる

--	--	--	--

(14) 脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる

--	--	--	--

(15) 自然の中に行くと新しい発見ができる

--	--	--	--

きわめて
あてはまる

 かなり
あてはまる

 わりと
あてはまる

 すこし
あてはまる

 あてはま
らない

- | | | | | |
|---|--|--|--|--|
| (16) みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ | | | | |
| (17) できないことがあるとできるようになるまで努力しつづける方だ | | | | |
| (18) 必要な時に、ありがとう、ごめんなさいが言える | | | | |
| (19) 暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる | | | | |
| (20) 自然の中の活動は気持ちがいいと感じる | | | | |
| (21) 困っている友だちを助けてあげることができる | | | | |
| (22) 出かけるときには、何が必要なか自分で判断し必要なものを持っていくことができる | | | | |
| (23) 天候の変化が敏感にわかる | | | | |
| (24) 年上の人に自分の考えを言える | | | | |
| (25) 草花や自然の景色を見て感動することがある | | | | |

ご協力ありがとうございました

自然学校についてのアンケートのお願い

（調査主体：兵庫県立南但馬自然学校）

お子さまも元気に自然学校から戻られ、保護者の皆様におかれましても一安心されているところをご推察申し上げます。

さて、再度、兵庫県立南但馬自然学校よりのアンケート調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。今回の調査は必ず事前調査に回答していただいた保護者の方と同じ方がご記入下さいますようお願いいたします。回答いただきました調査票は統計的処理をおこない、個人にご迷惑をおかけすることは絶対にございませぬ。つきましては、ご多忙のところお手数をおかけいたしますが本アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

問1. あなたのお子さまは5年（ ）組

問2. お子さまの性別（男子・女子）

問3. 自然学校に参加されたお子さまの現在の様子について、当てはまるところに○をつけてください。

きわめて
あてはまる

かなり
あてはまる

わりと
あてはまる

すこし
あてはまる

あてはま
らない

（例）よく手伝いをするほうだ

	○			
--	---	--	--	--

（1）班長やリーダーを積極的にひきうけることができる

--	--	--	--	--

（2）歩いている途中で疲れても、文句を言わないで

歩き通すことができる

--	--	--	--	--

（3）だれとでも気軽に話ができる

--	--	--	--	--

（4）決められた時間に遅刻しないで行くことができる

--	--	--	--	--

（5）食べていい木の実や草を知っている

--	--	--	--	--

（6）みんなの意見をまとめることが得意である

--	--	--	--	--

（7）友だちよりうまくできないことがあっても、

いやになったりせず頑張り通すことができる

--	--	--	--	--

（8）新しい友達を簡単につくれる

--	--	--	--	--

（9）朝、人に起こされなくても、自分で起きることができる

--	--	--	--	--

（10）自然と人間の生活には深いかわりがあると思っている

--	--	--	--	--

（11）何かをやらうとするとき、リーダーになってやる方だ

--	--	--	--	--

（12）工作をしている途中で、失敗した部分があっても、

自分で工夫して作品を完成させることができる

--	--	--	--	--

（13）遊んでいる仲間にあとから加わることができる

--	--	--	--	--

（14）脱いだ服や持ち物はきちんと整理できる

--	--	--	--	--

（15）自然の中に行くと新しい発見ができる

--	--	--	--	--

きわめて かなり わりと すこし あてはま
あてはまる あてはまる あてはまる あてはまる らない

(16) みんなのできないようなむずかしいことに挑戦する方だ				
(17) できないことがあるとできるようになるまで努力しつづける方だ				
(18) 必要な時に、ありがとう、ごめんなさいと言える				
(19) 暑い時や寒い時に自分で衣服を調整することができる				
(20) 自然の中の活動は気持ちがいいと感じる				
(21) 困っている友だちを助けてあげることができる				
(22) 出かけるときには、何が必要なのか自分で判断し必要なものを持っていくことができる				
(23) 天候の変化が敏感にわかる				
(24) 年上の人に自分の考えを言える				
(25) 草花や自然の景色を見て感動することがある				

問4 お子さまが自然学校から帰られたあと、どのようなお話しをしましたか。

当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------------|
| 1. プログラム(活動内容)のこと | 2. 友だちのこと | 3. 先生のこと |
| 4. 指導補助員のこと | 5. 自然との関わりのこと | 6. 集団生活体験のこと |
| 7. 食事のこと | 8. 宿舎建物について | |
| 9. 南但馬自然学校の職員のこと | 10. 自然学校で出会った地元の人のこと | 11. その他 |

問5 お子さまに自然学校を体験させてよかったと思いますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1. 思う 2. 思わない 3. どちらでもない

↓(「1. 思う」とお答えになった方だけ、次の質問SQ1にお答え下さい)

SQ1 その理由を次の中から選んでください。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. 家や学校から離れての集団生活で自主性や協調性が養えた | |
| 2. ふだん体験できないことができた | 3. 友だちとのつきあい方を学んだ |
| 4. 自然とゆったりとふれあえた | 5. 楽しい体験だった |
| 6. 保護者へ感謝の気持ちをもつようになった | 7. 集団生活でがまん強くなった |
| 8. やり遂げることを学んだ | 9. 手伝いをするようになった |
| 10. その他 () | |

問6 もう一度自然学校のような体験をお子さまにさせたいと思いますか。

当てはまる番号に○をつけてください。

1. させたい 2. させたくない 3. どちらでもない

↓(「2. させたくない」とお答えになった方だけ、次の質問SQ2をお答え下さい)

SQ2 その理由を次の中から選んでください。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 5泊6日は長すぎる | 2. こういう体験は1回だけで十分である |
| 3. 体のことが心配だから | 4. プログラムに無理があるから |
| 5. 自然学校の目的や意義がよくわからない | 6. 学習が遅れるから |
| 7. 不便がないよう設定されすぎている | 8. 準備が大変だから |
| 9. お金がかかりすぎるから | 10. その他 () |

問7 あなたご自身もお子さまと同じ体験をしてみたいと思われましたか。
当てはまる番号に○をつけてください。

1. したい 2. したくない 3. どちらでもない

南但馬自然学校では「親子で楽しむ自然学校（仮称）」を考えています。もしあなたのご家族が参加されるとした場合、あなたご自身の意見をお聞かせ下さい。

問8 「親子で楽しむ自然学校」に参加するとしたら、あなたのご家族は次のどれに期待しますか。
あなたのお考えに最も近い項目一つを選んでください。

1. 子どもが体験したことと同じことを体験したい 2. 親子の共同体験の機会にしたい
3. 自然の美しさや厳しさを体験したい 4. その土地の人々の人柄や人情に触れたい
5. 農林水産活動を体験したい 6. 参加家族相互の交流の機会としたい
7. 郷土芸能や年中行事を体験したい 8. どんな自然体験ができるのか
9. 子ども同士の交流 10. その他（ ）

問9 「親子で楽しむ自然学校」で行なってみたいと思われる活動の番号に○印をつけてください。
いくつ選んでいただいても結構です

- | | | | |
|----------------------------|---------------------|---------------------|---------|
| 1. キャンプ | 2. 森林浴 | 3. きのこと・山菜取り | 4. 溪流釣り |
| 5. オートキャンプ | 6. 海釣り | 7. スターウォッチング | 8. 登山 |
| 9. サイクリング | 10. パラグライダー | 11. ガスー（川） | |
| 12. ハングライダー | 13. 自然観察（植物・昆虫） | 14. キャンプファイヤー | |
| 15. マウンテンバイク | 16. フィールドアスレティック | 17. 森林オリエンテーリング | |
| 18. スキー・スノーボード | 19. バードウォッチング | 20. ボードセーリング（ヨットなど） | |
| 21. ネイチャーゲーム | 22. 自然物を使った工作 | 23. アウトドアクッキング | |
| 24. 木陰で読書 | 25. 陶芸 | 26. 餅つき | |
| 27. 農作業（田植え、稲刈り、野菜の作付け、収穫） | | 28. 酪農体験 | |
| 29. 林業体験（枝打ち、下草刈りなどの山仕事） | | 30. わら細工 | |
| 31. 木陰で昼寝 | 32. 村祭りや地域の伝統文化にふれる | | |
| 33. ナイトハイク | 34. スケッチ | 35. 温泉 | |
| 36. ハイキング | 37. 基地づくり | 38. 雪上活動 | |
| 39. 地引き網 | 40. 手打ちそば・うどんづくり | | |
| 41. その他（ ） | | | |

問10 「親子で楽しむ自然学校」ではどのようなグループで活動したいですか。
あなたのお考えに最も近い項目一つを選んでください。

1. 参加家族全員で活動したい
2. 自分の家族だけで活動したい
3. 主に自分の家族で活動するが参加家族全体で楽しむ時間もほしい
4. 主に参加家族全体で活動するが、自分の家族で楽しむ時間もほしい
5. その他（ ）

↓（「2.」「3.」「4.」のいずれかに○印をおつけになった方だけ、次のSQ3をお答え下さい）

SQ3 ご自分の家族で活動を楽しむ場合、どの程度施設側の指導を必要とされますか

1. 施設側からの指導は必要でない 2. 施設側からの指導が一部必要である
3. 施設側からの指導が全面的に必要である

問11 「親子で楽しむ自然学校」では主にどのような場所に宿泊したいですか。

当てはまるもの1つを選んでください。

1. ロッジ 2. テント 3. 民家にホームステイ 4. 旅館
5. 野宿 6. その他

問12 「親子で楽しむ自然学校」ではどの程度の泊数が適当だと思われませんか。

当てはまるもの1つを選んでください。

1. 日帰り 2. 一泊 3. 二泊 4. 三泊 5. 四泊
6. 五泊以上（具体的に 泊）

問13 「親子で楽しむ自然学校」をいつ開催されれば参加しやすいとお考えでしょうか。当てはまるもの1つを選んでください。

1. 平日 2. 週末 3. 連休 4. 子どもの長期休業中 5. その他

問14 「親子で楽しむ自然学校」はどの季節に開催されれば参加したいと思いませんか。

当てはまるもの1つを選んでください。

1. 春 2. 夏 3. 秋 4. 冬 5. 季節を問わない

問15 「親子で楽しむ自然学校」の期間を2泊3日とした場合、大人1人に費やしてもよいと考えられる費用はいくらくらいでしょうか（交通費を含めて）

万 千円位

問16 あなたご自身は南但馬自然学校に興味をもたれましたか。当てはまるもの1つを選んでください。

1. 大変興味をもった 2. 少し興味をもった
3. あまり興味をもたなかった 4. 全く興味をもたなかった

次に、このアンケート調査にご回答いただいているあなた自身のことがらについてお尋ねします

問17 あなたご自身が余暇に求める楽しみや目的で次の中から、当てはまる番号すべてに○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 心の安らぎを得ること | 2. 友人や知人との交流を楽しむこと |
| 3. 身体を休めること | 4. 家族との交流を楽しむこと |
| 5. 健康や体力の向上をめざすこと | 6. 日常生活の開放感を味わうこと |
| 7. 自然に触れること | 8. 知識や教養を高めること |
| 9. 自分で作れる喜びを満たすもの | 10. 芸術や美的な関心を満たすこと |
| 11. 好奇心を満たすこと | 12. 社会や人のために役立つこと |
| 13. 贅沢な気分をひたること | 14. 仕事や学習への新しい意欲を得ること |
| 15. 技術や腕前の向上をめざすこと | 16. 仕事や学習に役立つこと |
| 17. 創造力を発揮すること | 18. 実益（収入）に結びつくこと |
| 19. 賭や偶然を楽しむこと | 20. 腕を競い競争すること |
| 21. 推理、想像を楽しむこと | 22. スリルを味わうこと |

問18 あなたとお子さまの続柄

1. 父 2. 母 3. 祖父 4. 祖母 5. その他 ()

問19 あなたは何人家族でしょうか

() 人

問20 あなた自身、自然の中で活動することに関心がありますか。

1. 非常にある 2. 少しある 3. あまりない 4. 全くない

問21 あなた自身は自然体験を目的にしたイベントやプログラムに参加したことはありますか。

1. ある 2. ない 3. わからない

問22 あなたのお住まいは

() 市・郡 () 区・町

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会委員名簿

分 野	氏 名	所 属 ・ 職 名
学 識 経 験 者	山 田 誠	神戸市外国語大学教授
	高 見 彰	関西国際大学教授
	中 野 友 博	姫路獨協大学助教授
	甲 斐 知 彦	関西学院大学助教授
兵庫県立南但馬自然学校	足 立 み や 子	兵庫県立南但馬自然学校指導主事
	足 立 純	兵庫県立南但馬自然学校指導主事
	西 村 一 範	兵庫県立南但馬自然学校指導主事
	芦 田 哲	兵庫県立南但馬自然学校指導主事
	森 本 良 孝	兵庫県立南但馬自然学校指導主事

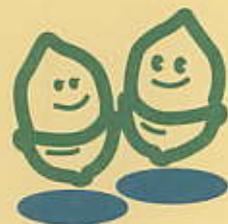
平成13・14年度

研究紀要

- 自然学校指導補助員に関する調査
- 自然学校を経験した5年生児童の保護者に関する調査

平成15年3月発行

発行 兵庫県立南但馬自然学校
〒669-5134 兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
TEL.079-676-4730・4731
FAX.079-676-4008
<http://www.hyogo-c.ed.jp/shizen-bo/>
Eメール shizen-bo@hyogo-c.ed.jp



兵庫県立
南但馬自然学校
HYOGO KENRITSU NANBU TAJIMA SHIZEN GAKKO

R100
環境教育推進事業

14教①1-042A4